

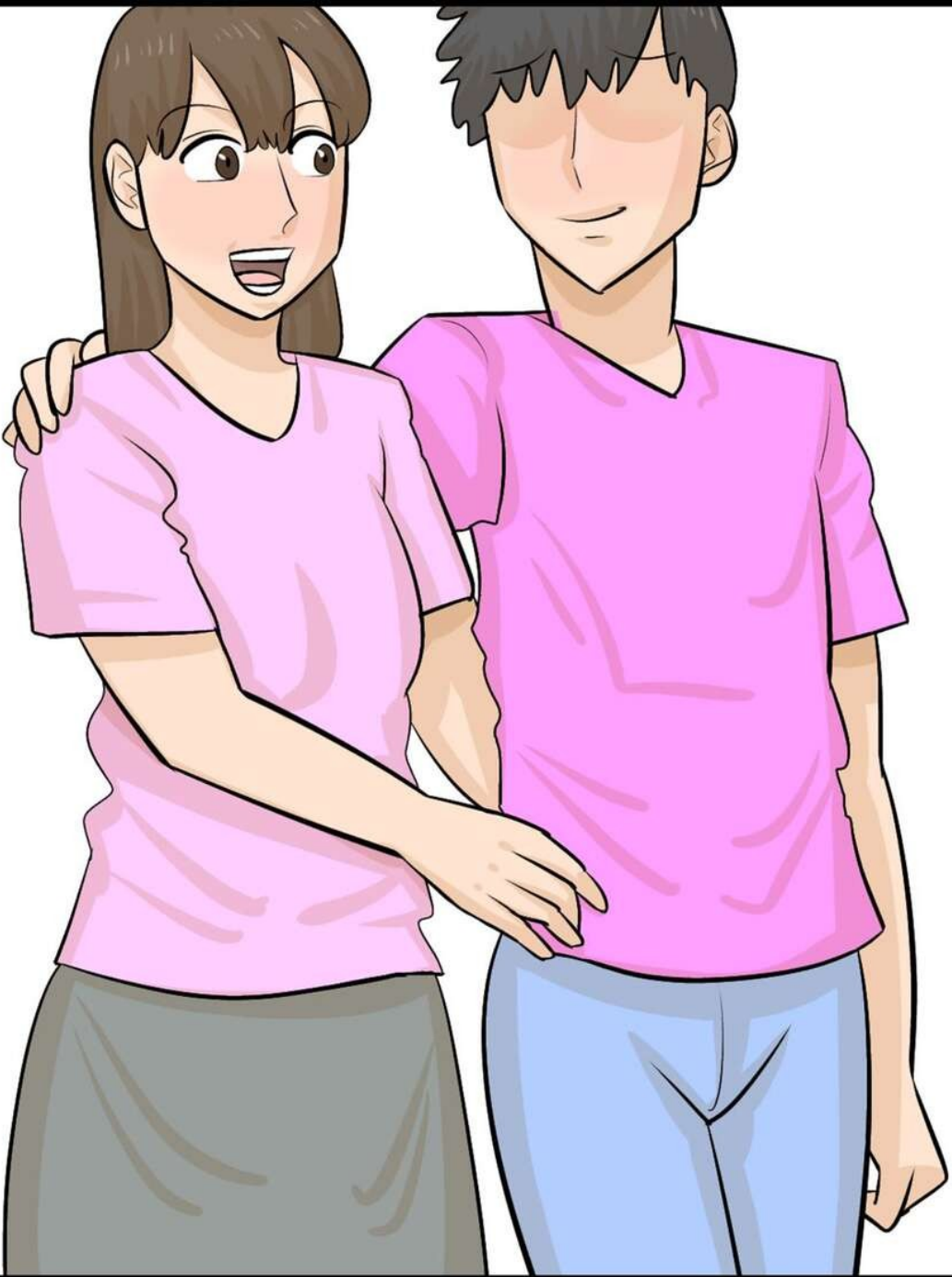


ギャル熟女

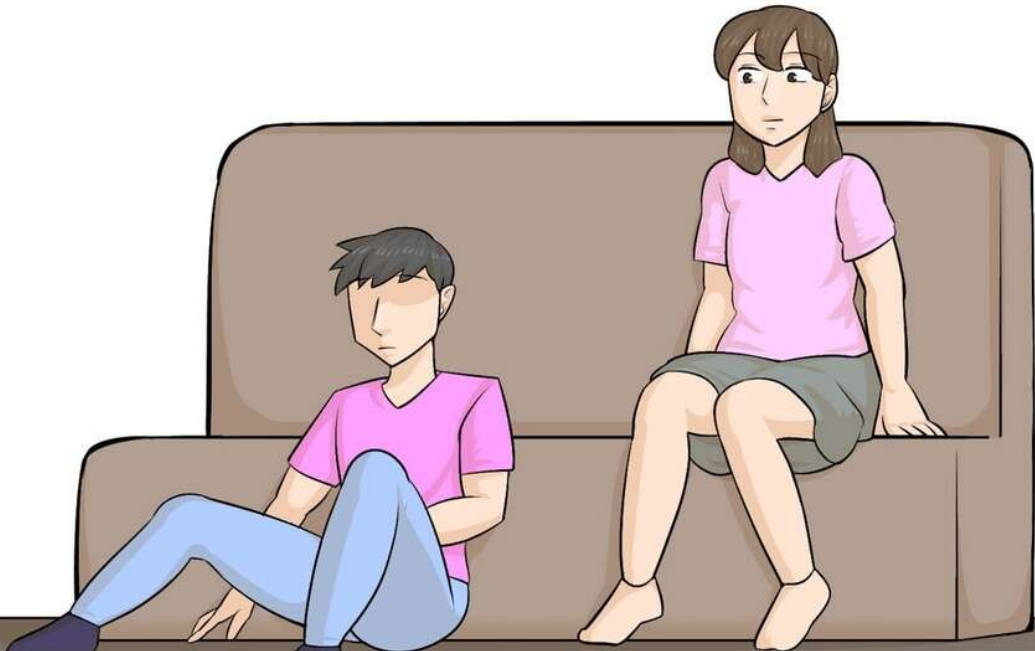
逆ネットラレ

58P

彼女は僕の恋人のひなこ。  
優しい僕の彼女だ。



わりと人前で、  
イチヤイチヤしちゃうこともある。



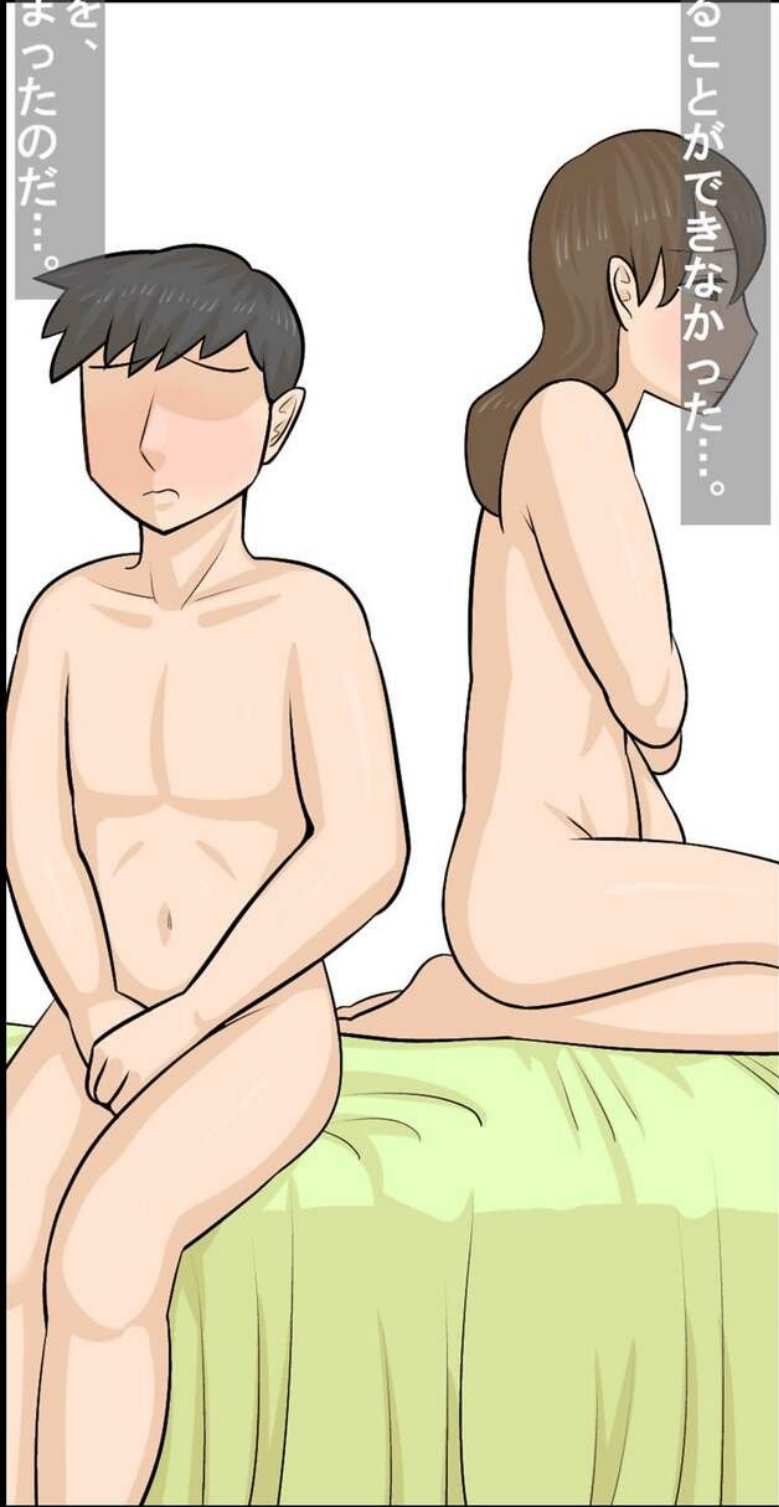
僕たちは同棲しているんだけど、  
この前家でリラックスしていたら...



いい感じの雰囲気になって...。  
エッチをした...

だけど、  
僕は射精することができなかつた...

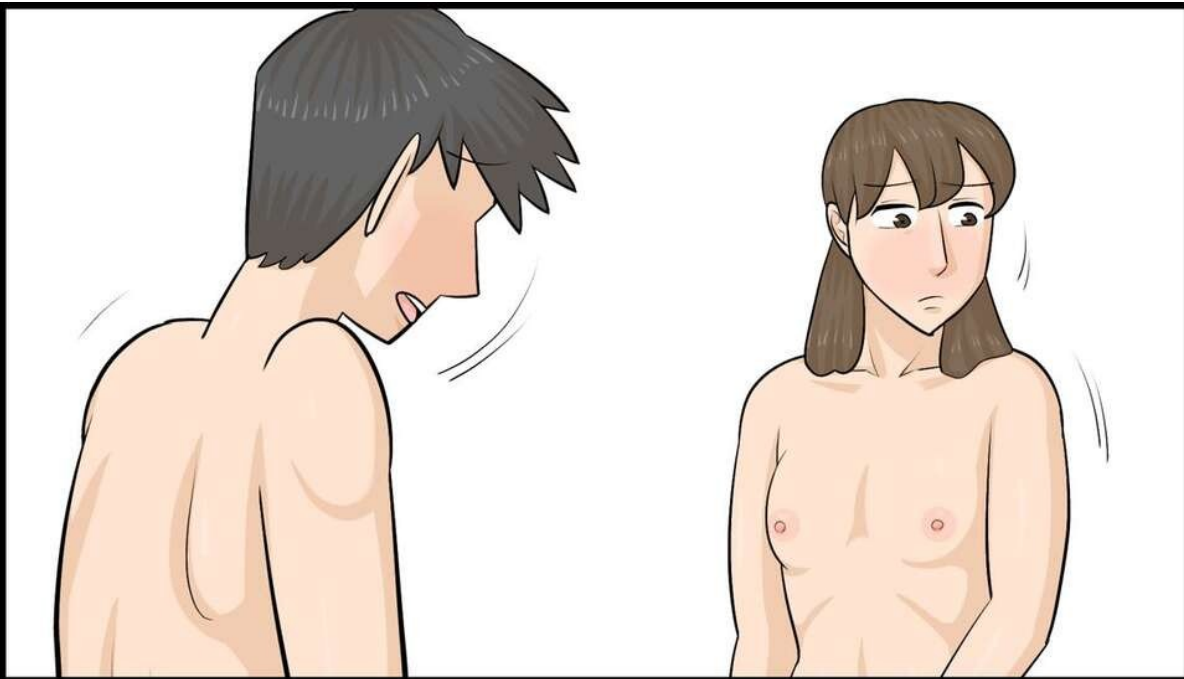
彼女のことを、  
傷つけてしまったのだ...



あっ...気持ちいいっ...。  
シンスケっ...。  
好きっ...

僕も好きだよっ...。  
ひなこっ...

ごめんっ…ひなこっ…。

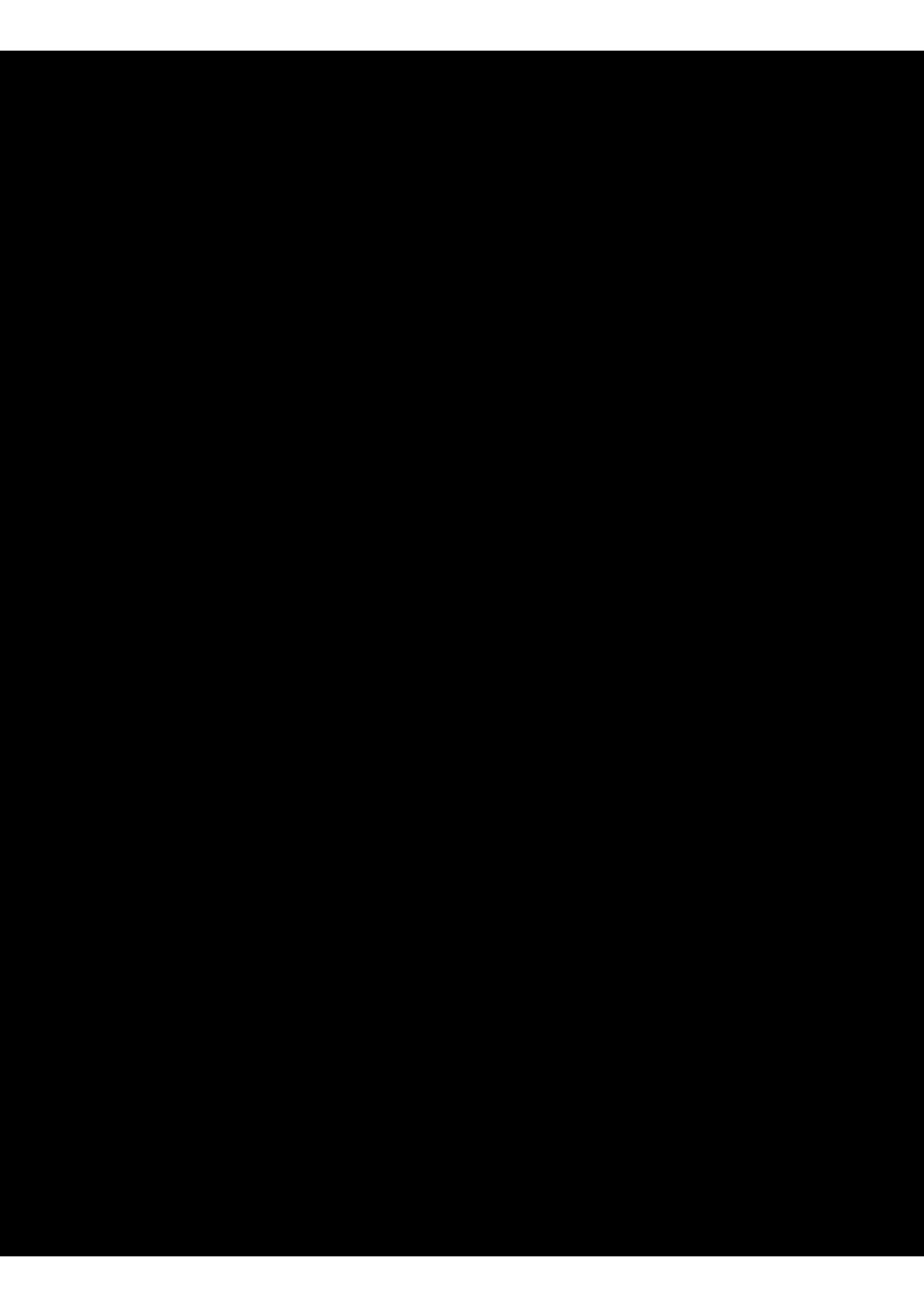


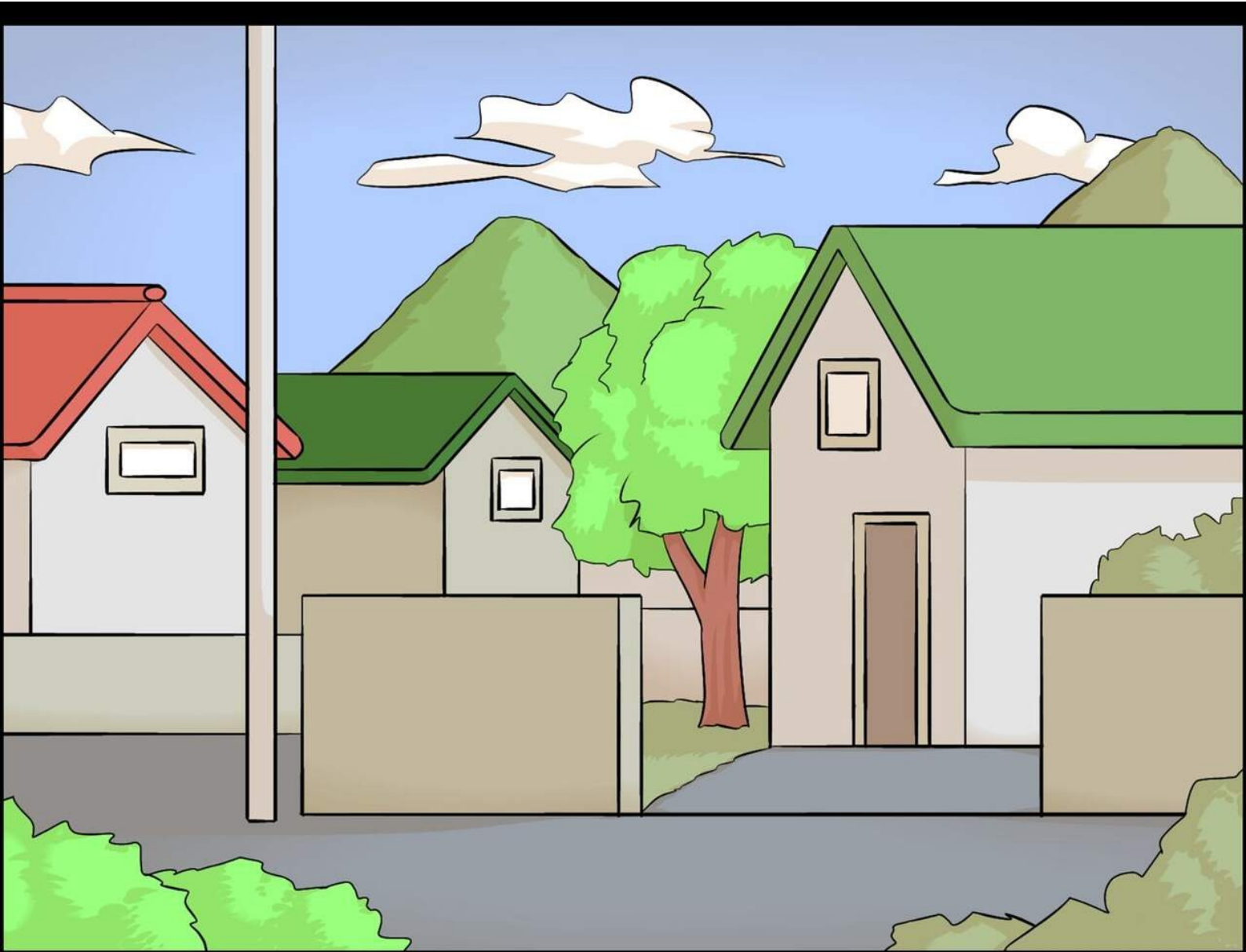
ちょっと…体調が悪くてっ…。  
本当にごめんっ…。

いっいやっ…大丈夫…。  
体調なら仕方ないよね…。



気にしてないから。  
元気出しなよ。





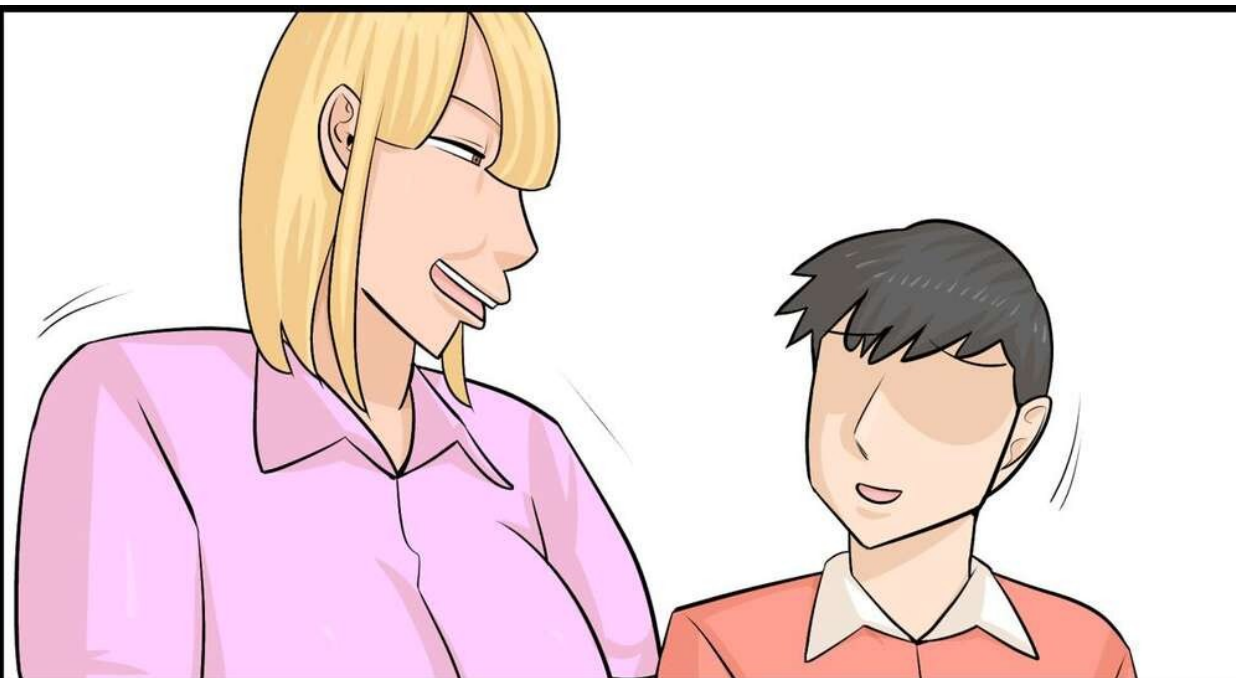
いつもお世話になっている。

この人は近所に住んでいる鈴木さん。

あつ…鈴木さん…。

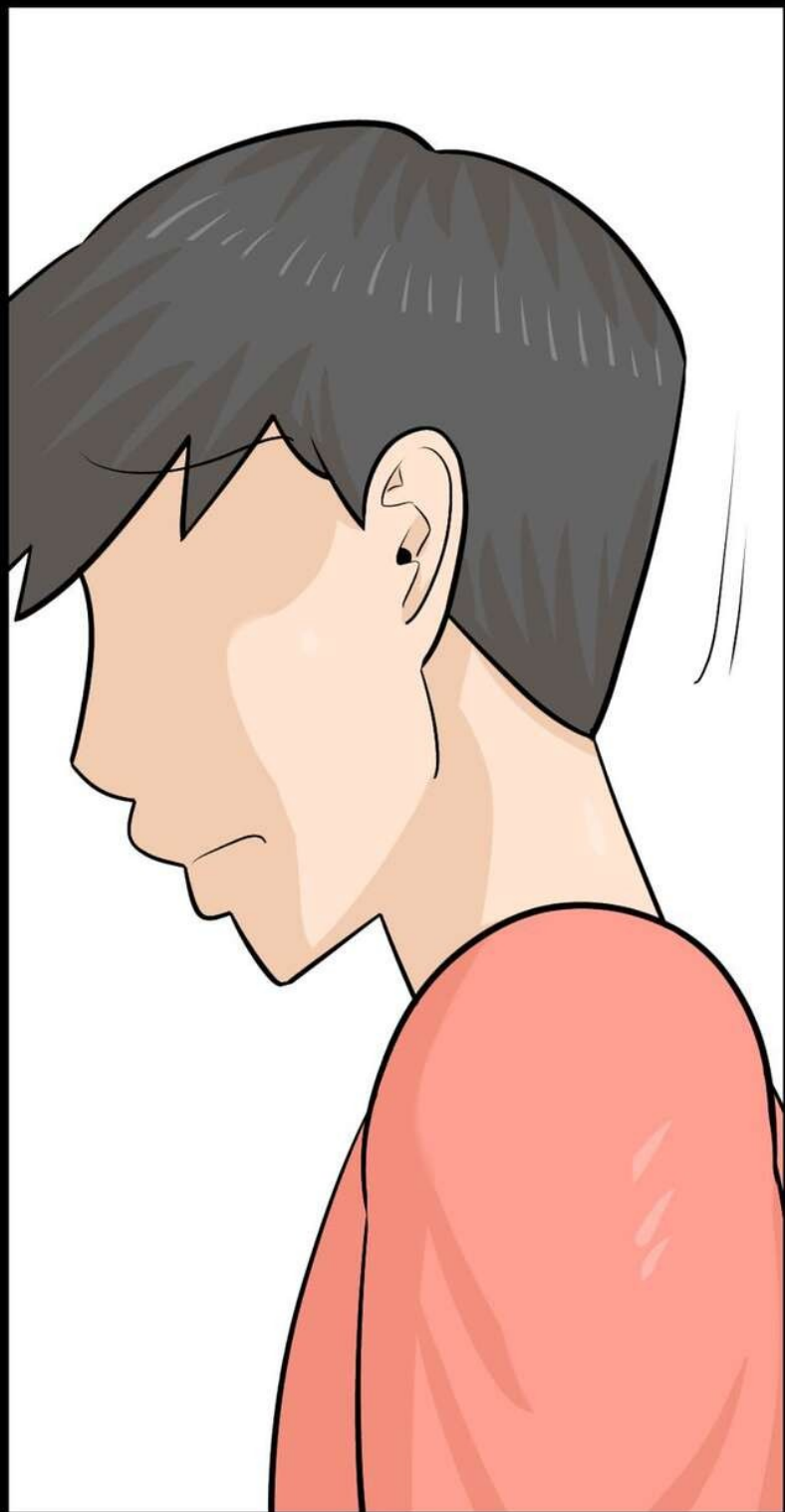
おーい。  
シンスケくん…。

本当に最近暑いわね！  
こんなんじゃないわよ！



あはは。  
そうだね…。

なんか浮かかない顔してるけど、何か悩みでもあった？



えっ…悩み…？

じつ…実は…。

それから僕はひなこと仲が、  
上手くいっていかないことを相談した。  
言いづらかったけど、  
射精できないことも。

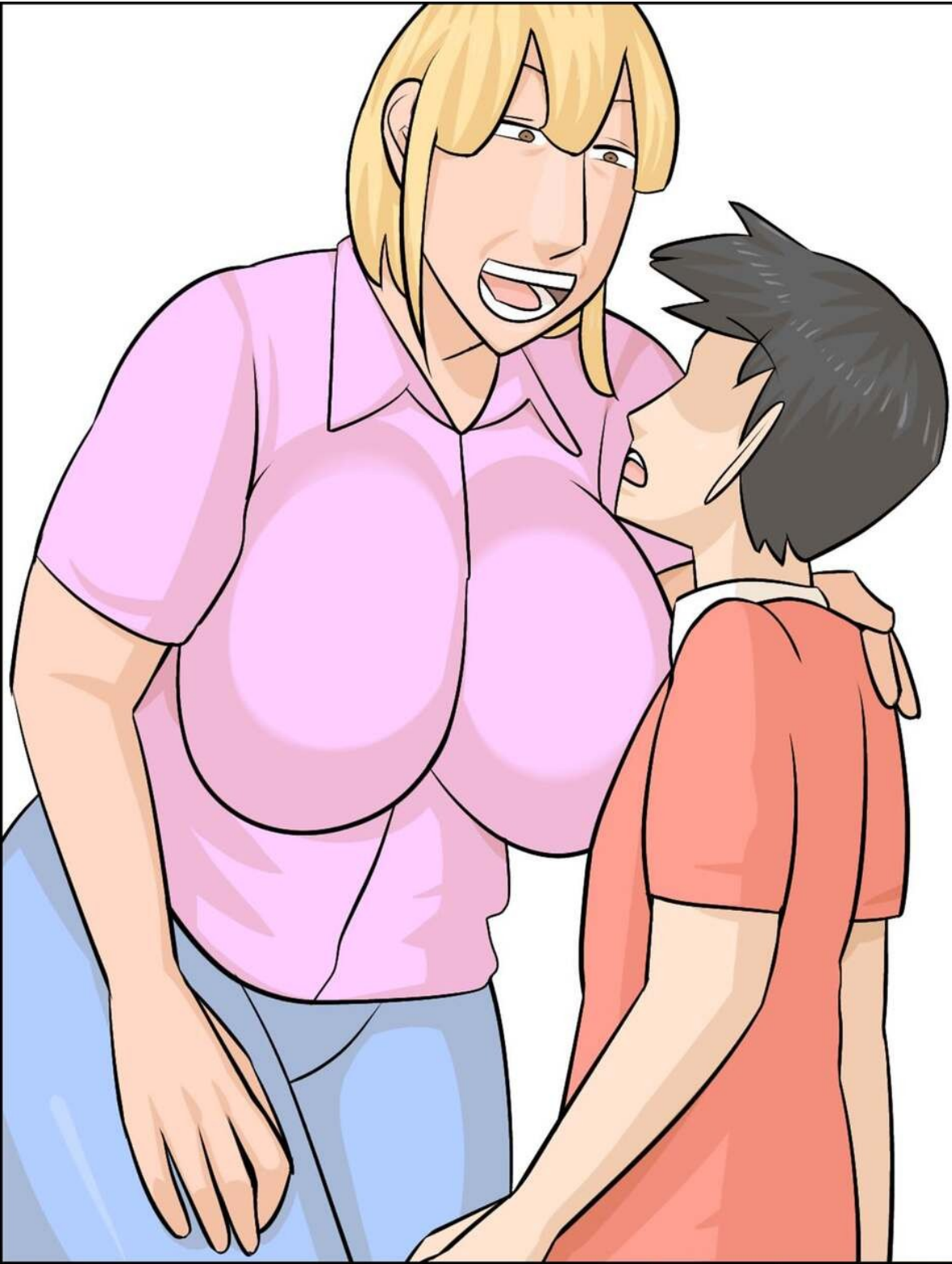


そうだったんだ…。  
確かに出せないのは、  
女にとって、  
ショックかもね…。

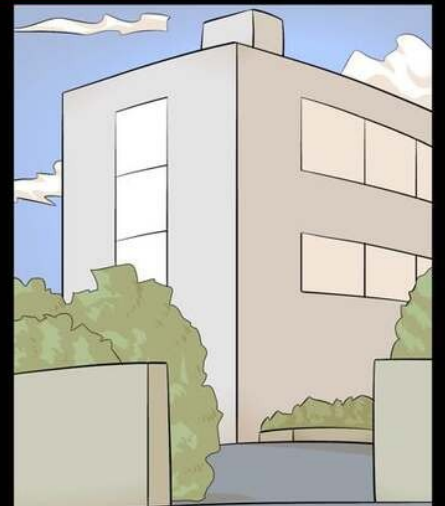
うーん…。



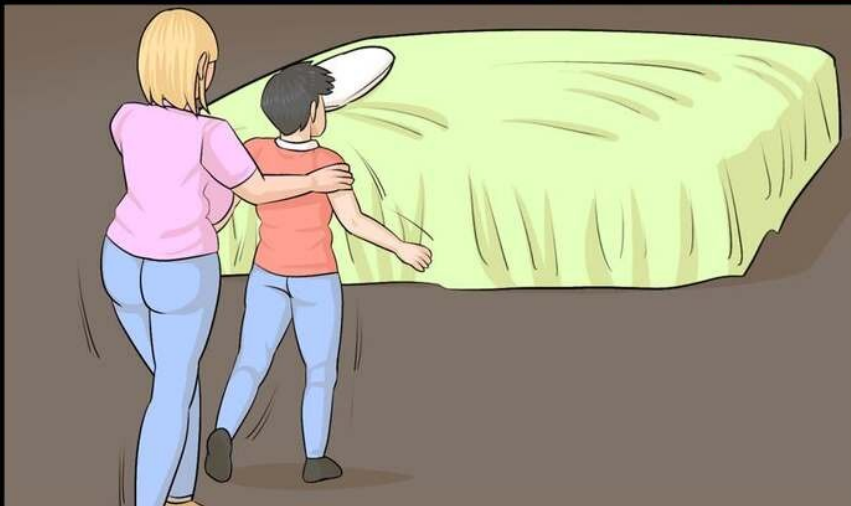
それじゃあ、  
私がその悩み、  
解決してあげるよ。



えっ……どうして……？



ちよっ……何するんだっ……。



なんでこんなとこ……。

ダメだよ…大人しくして…。



彼女で射精できないんですよ  
たつたら、  
私で練習すればいいじゃない。

私の体…使って？



わっ…何するんだっ…。



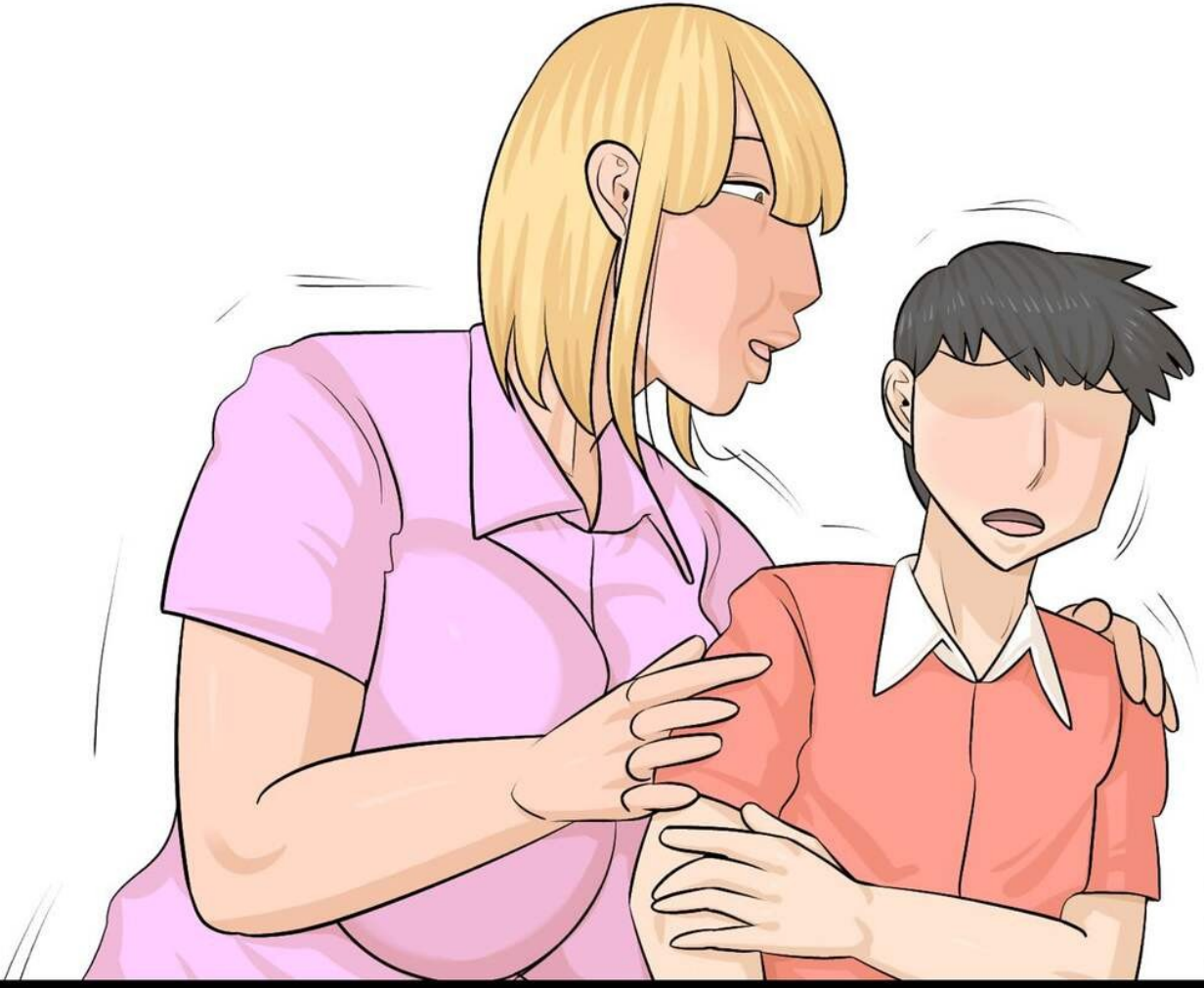
いや...そんなことは...

あなたのためじゃなく、  
彼女を安心させるためなんだよ...？



ひなの...ため...

わっ…わかったけど…いいの？  
そんなこと…。



いいのよ。  
いつもよくしてくるあんたの悩みだもん。  
私に任せて。



それじゃあ、  
服脱いじゃうね…。

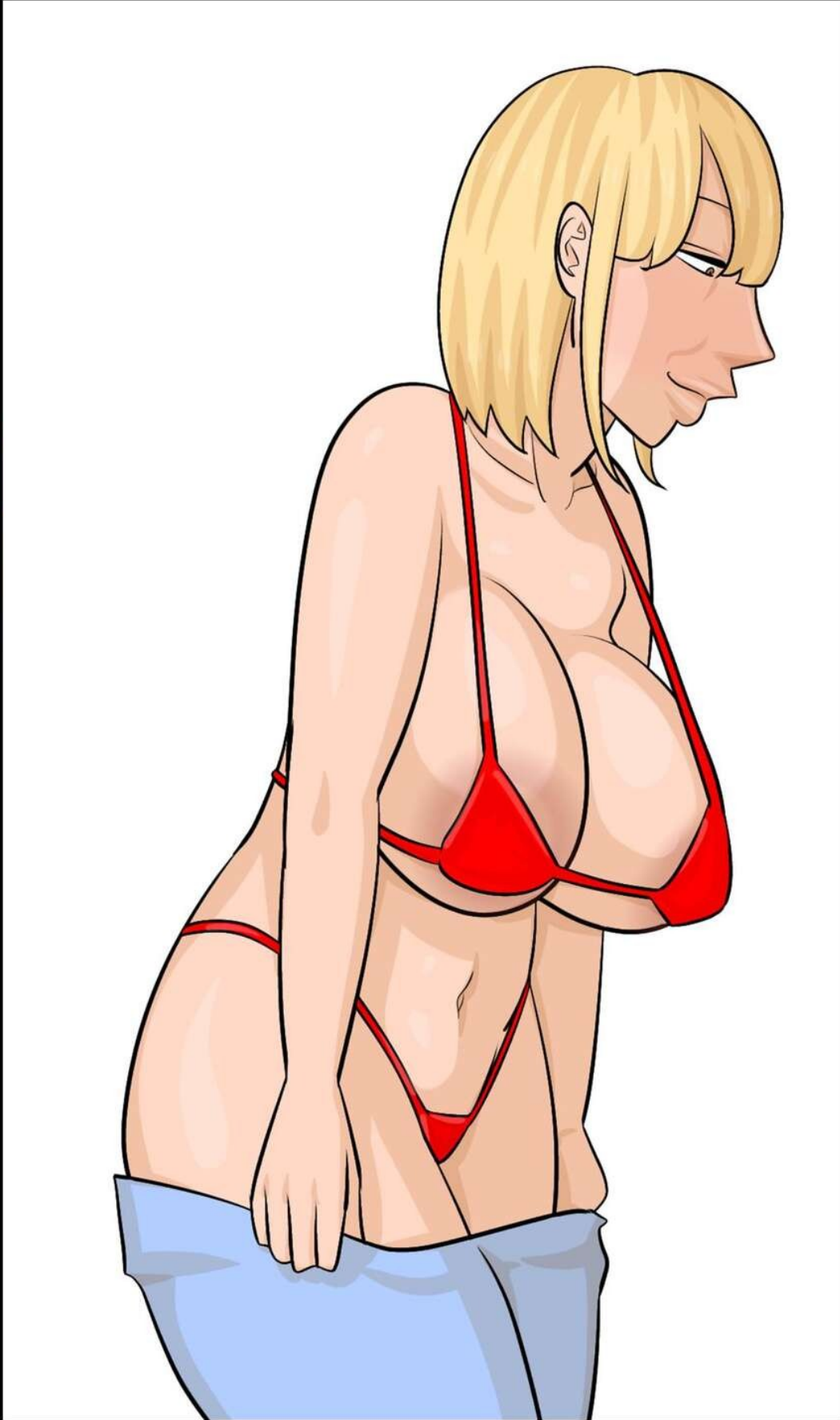


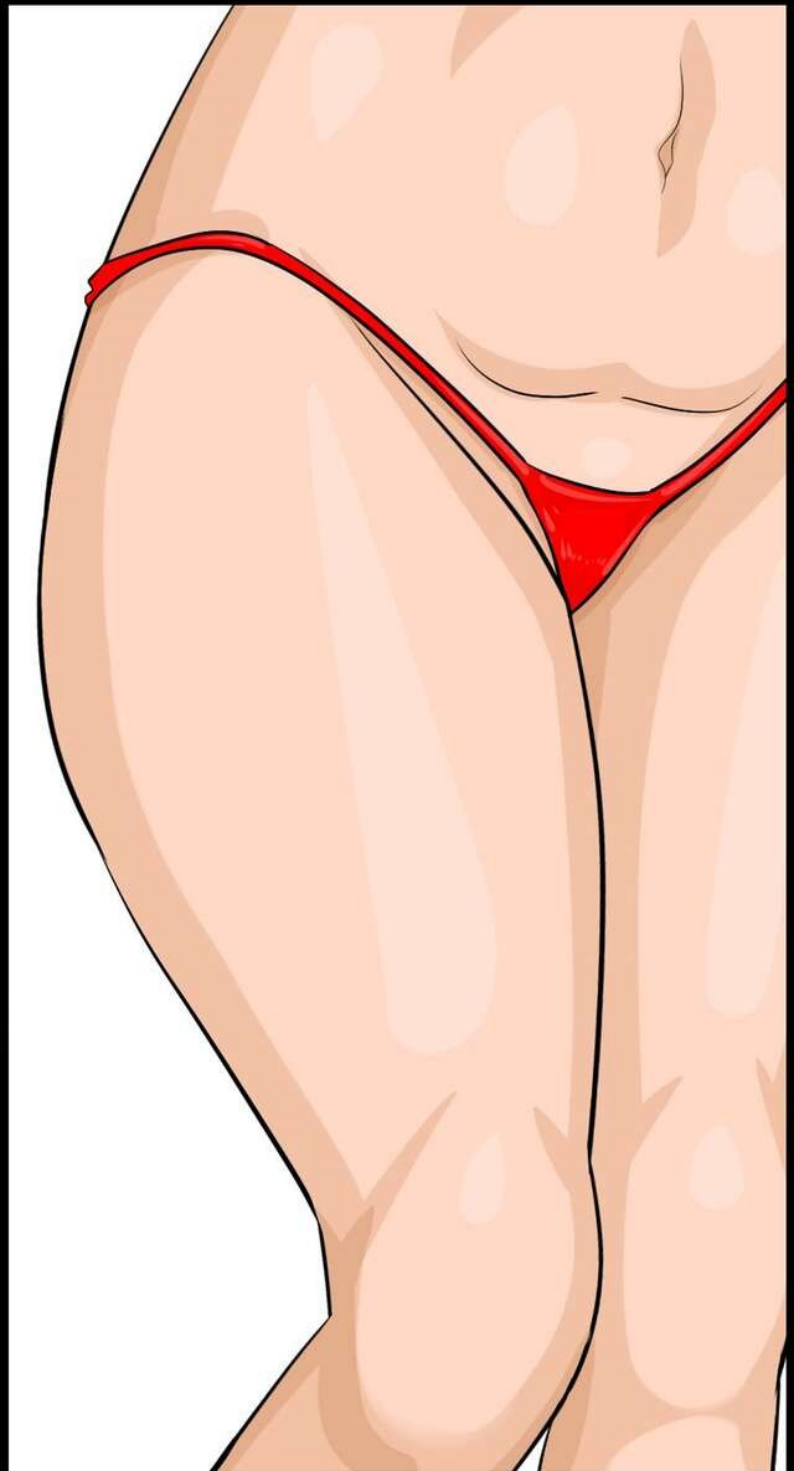
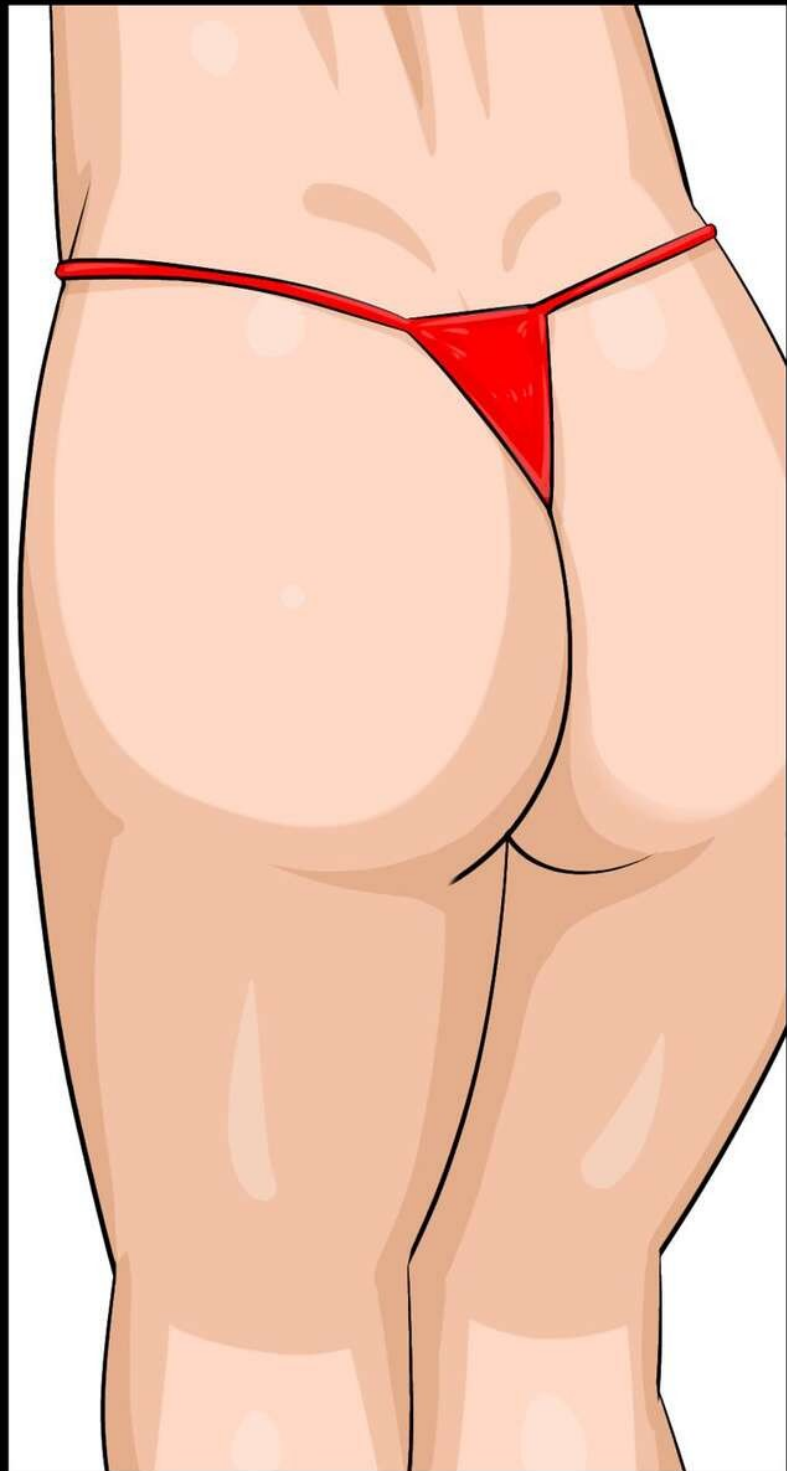
あらあら、  
射精できないとか言ってるけど、  
もう元気じゃないの…。



あつやめてっ…そんなところ…。

うっ…鈴木さん…服脱いでる…。





あんたの服も、  
脱がせてあげるね。



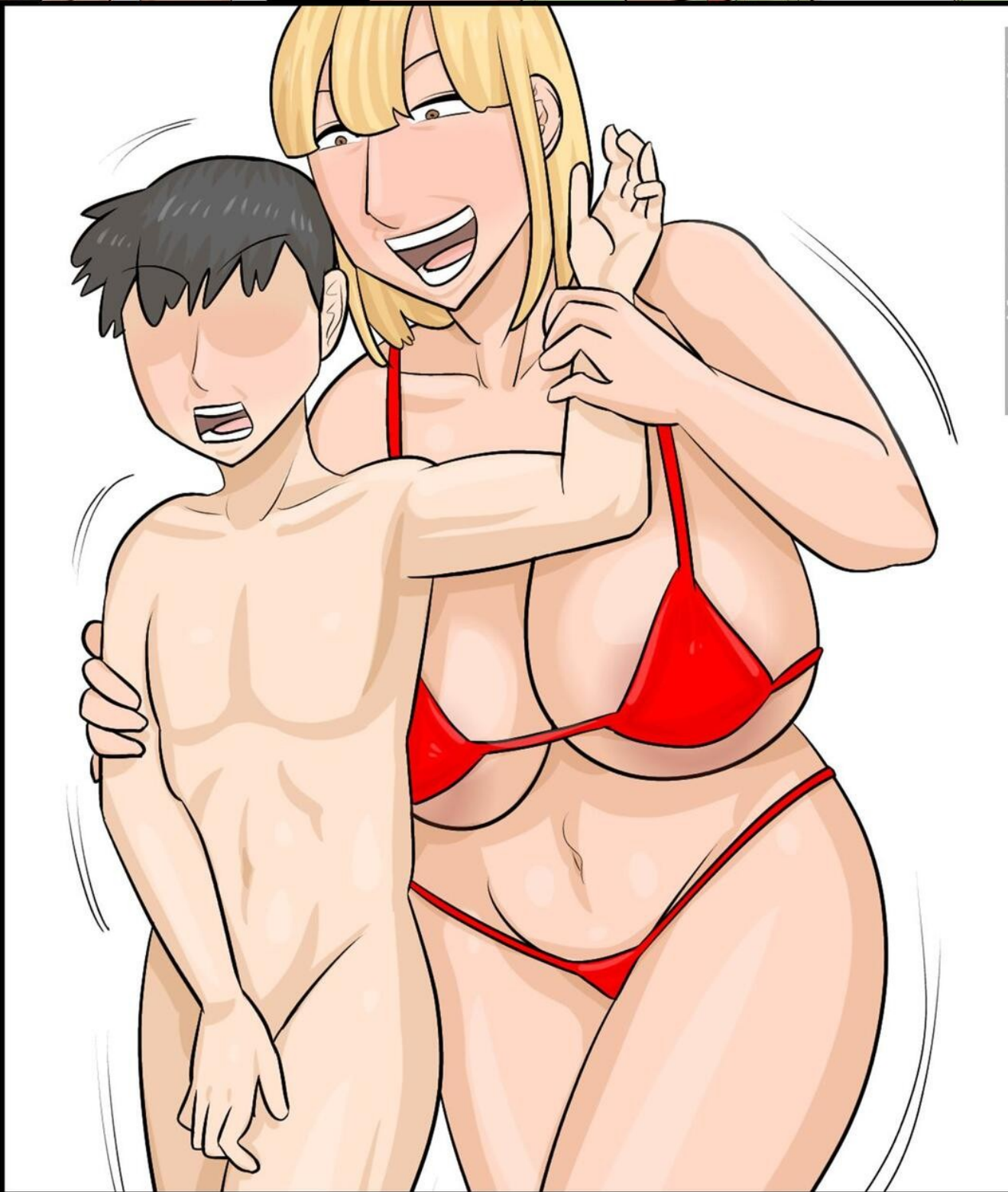
えっ…僕もっ…？  
まだ心の準備がっ…。

いやっ…下着はっ…  
ちよっど…。



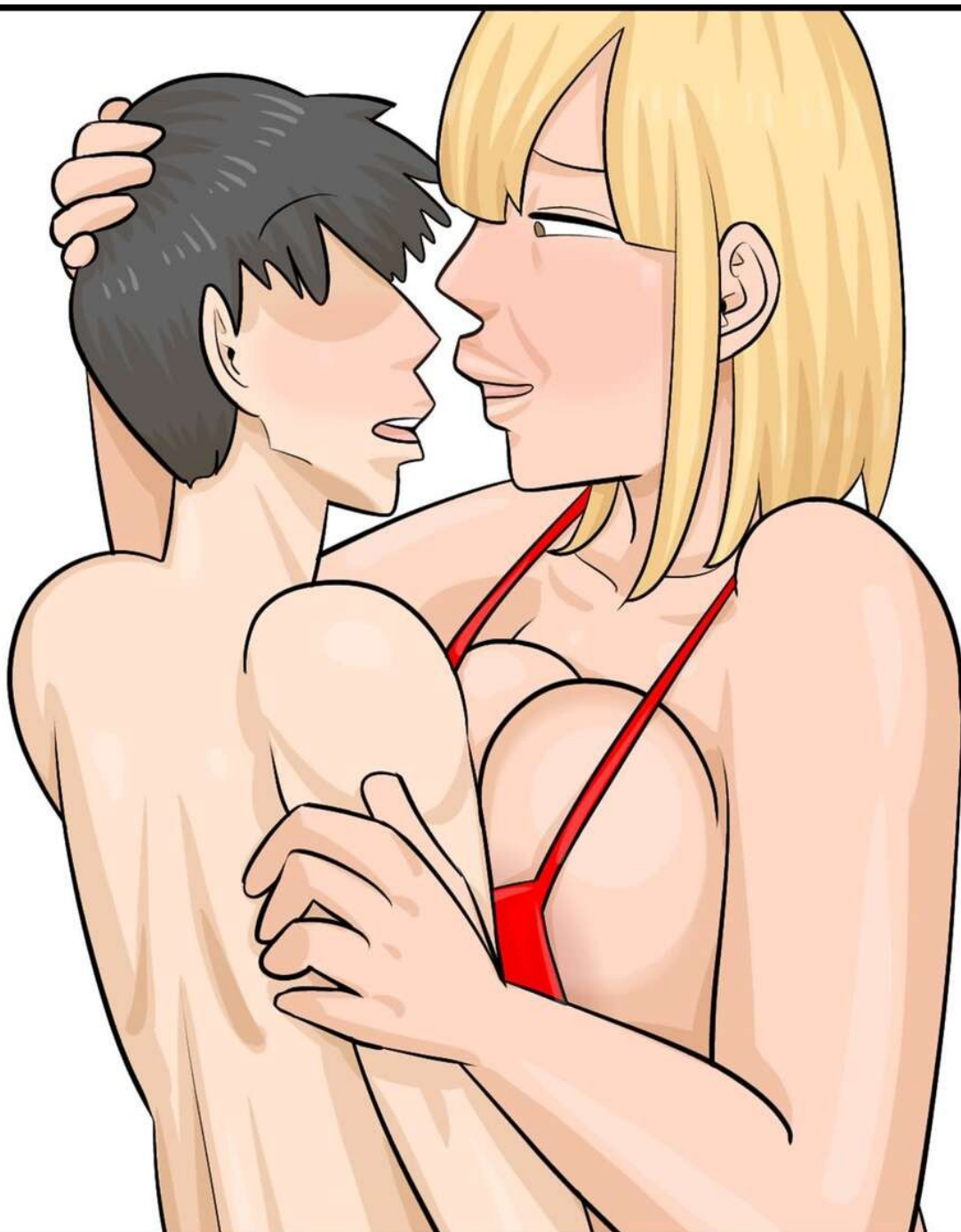
あはは、  
おちんぼ、  
出ちやっった！

あはは、  
緊張しないでねー！



いやっ…あのっ…。

それじゃあ、  
まずはキスからよ。  
ほら…舌出して…。



んっ……んっ……。



はぁ……はぁ……。

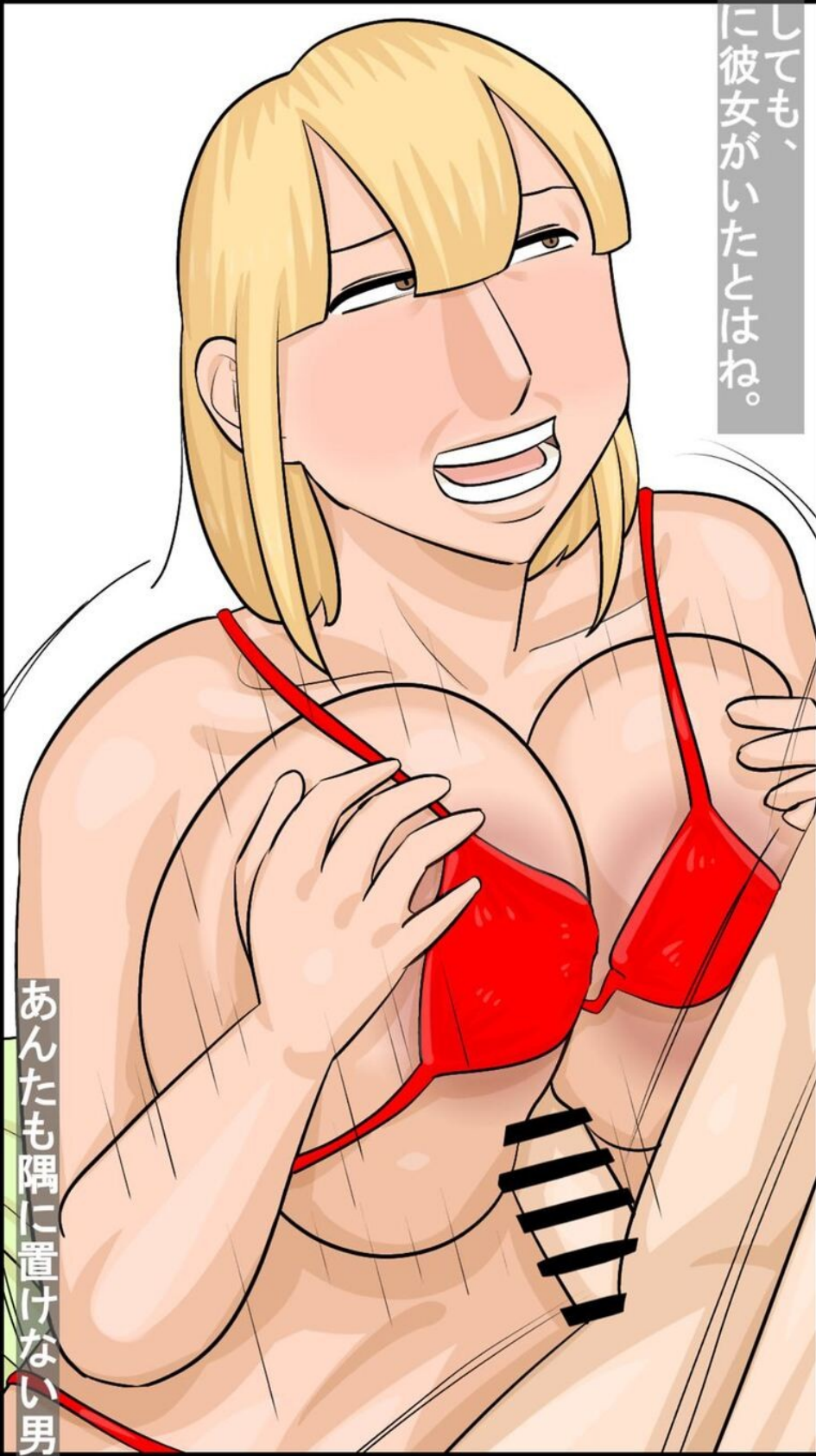


上手上手。  
その調子よ。



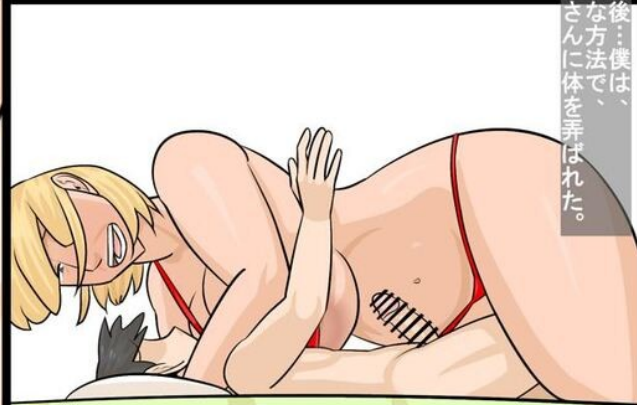
彼女のためにも、  
もっと頑張ろうね。

それにしても、  
あなたに彼女がいたとはね。

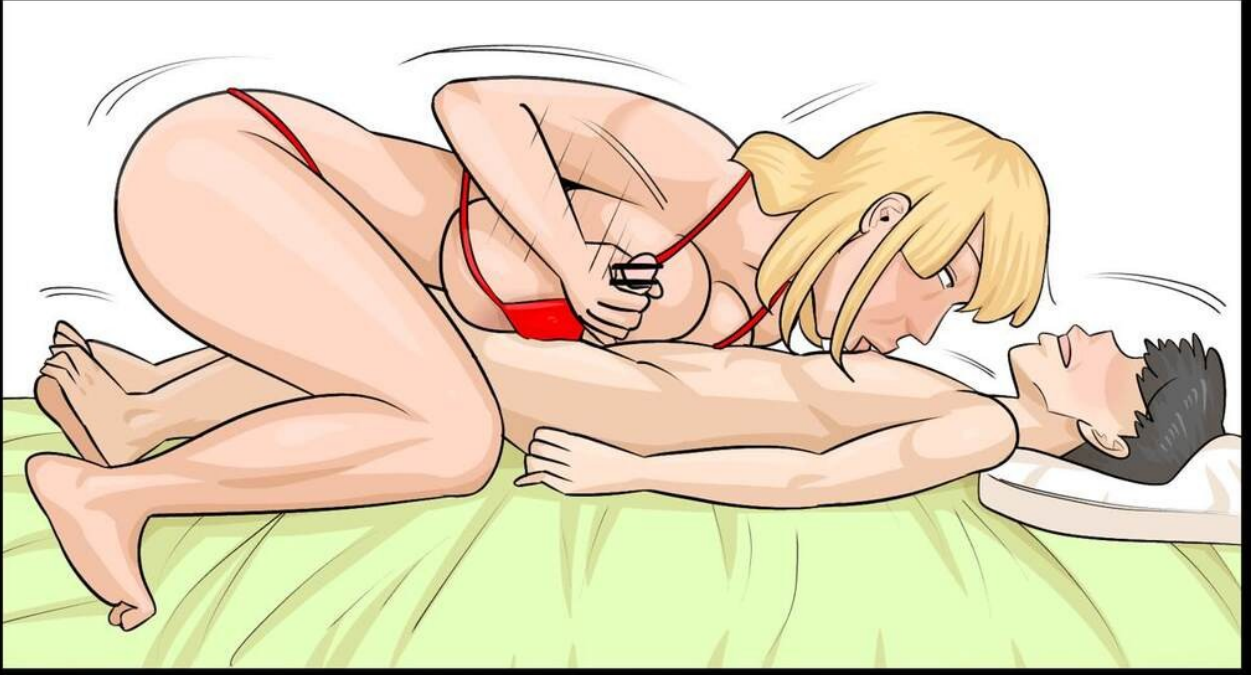


あなたも隅に置けない男だね。

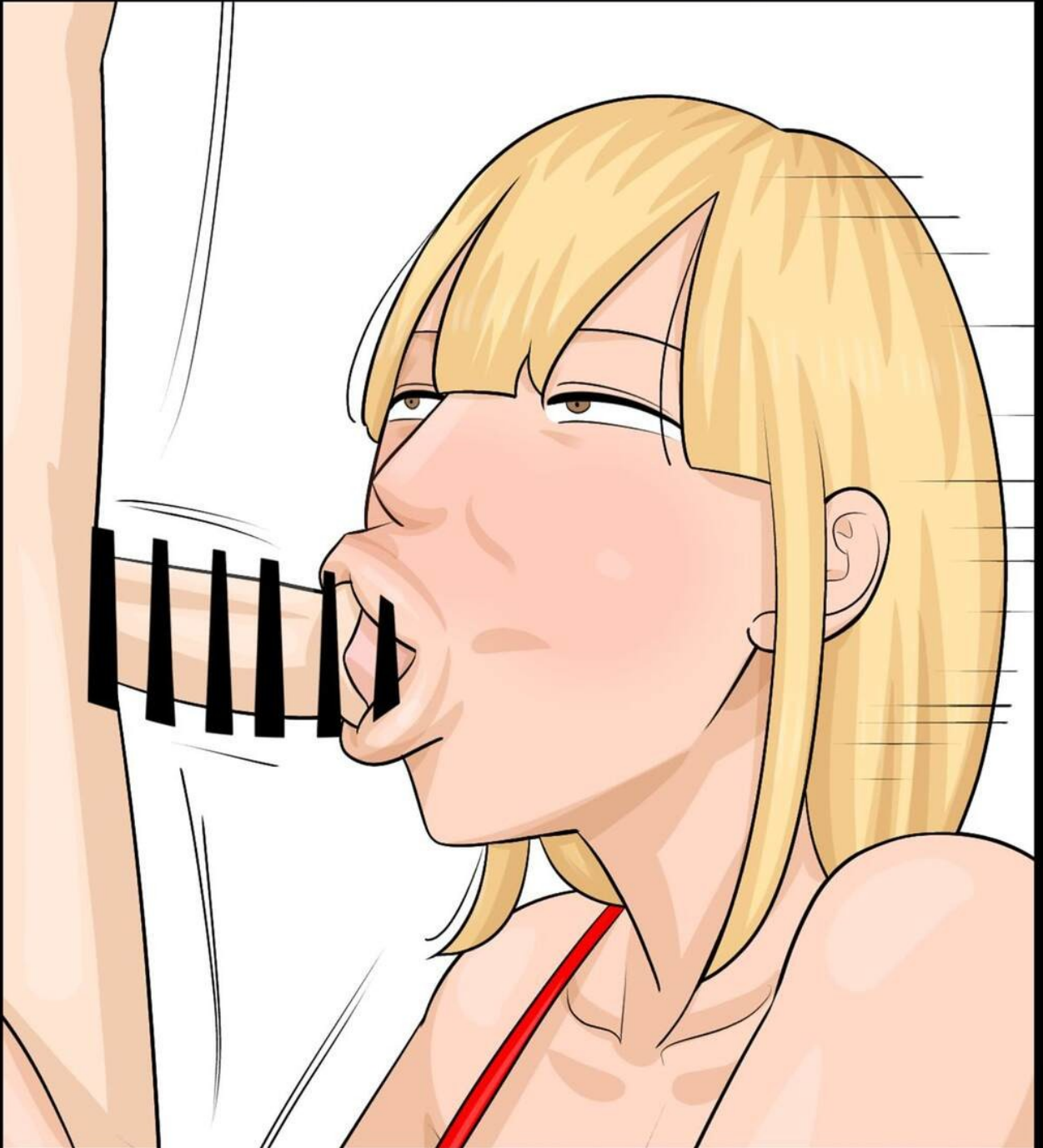
その後：僕は、  
様々な方法で、  
鈴木さんに体を弄ばれた。



あっ…何これ…。  
きもちっ…。

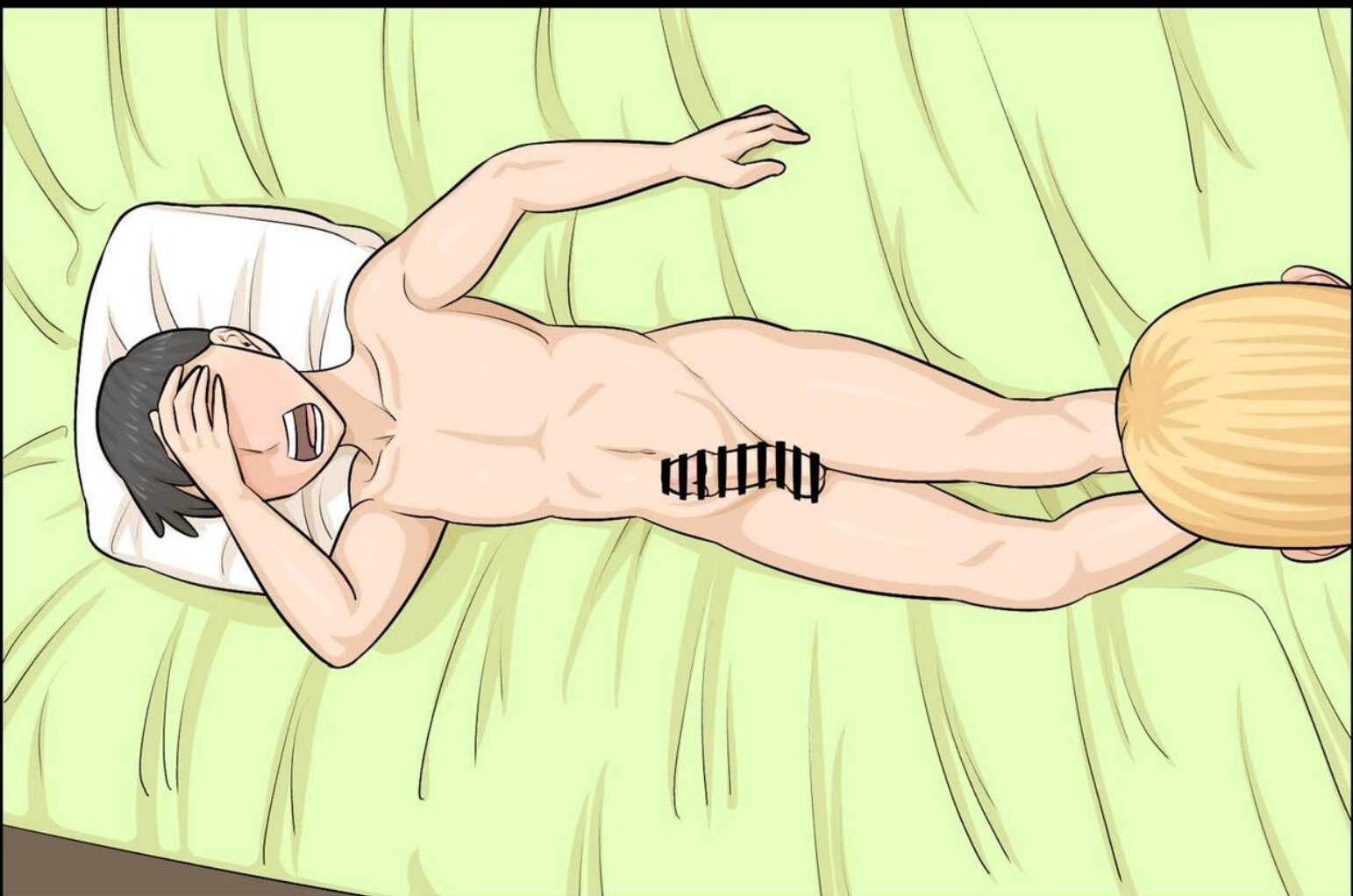


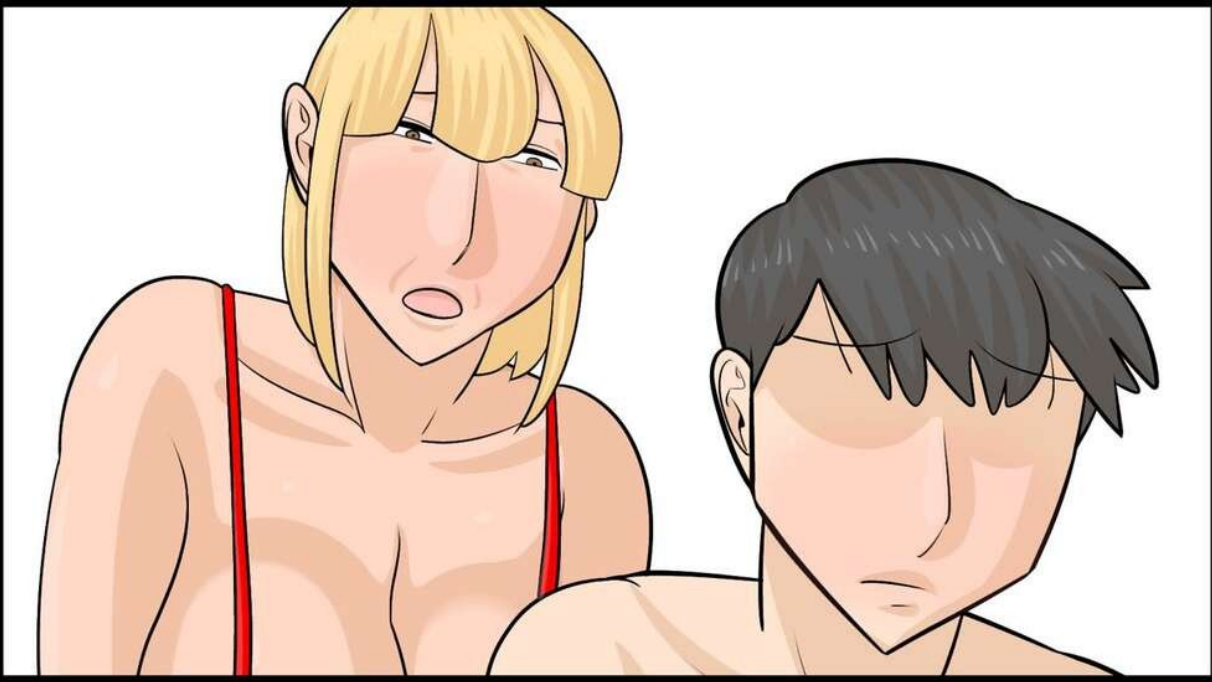
ひなこにはこんなこと、  
されたことないのに…。



僕…鈴木さんとのエッチのほうが…、  
ひなこのよりも興奮してる…。

いや…何考えてるんだ…僕。  
これは…僕が射精できるようになるために、  
練習してるだけで…





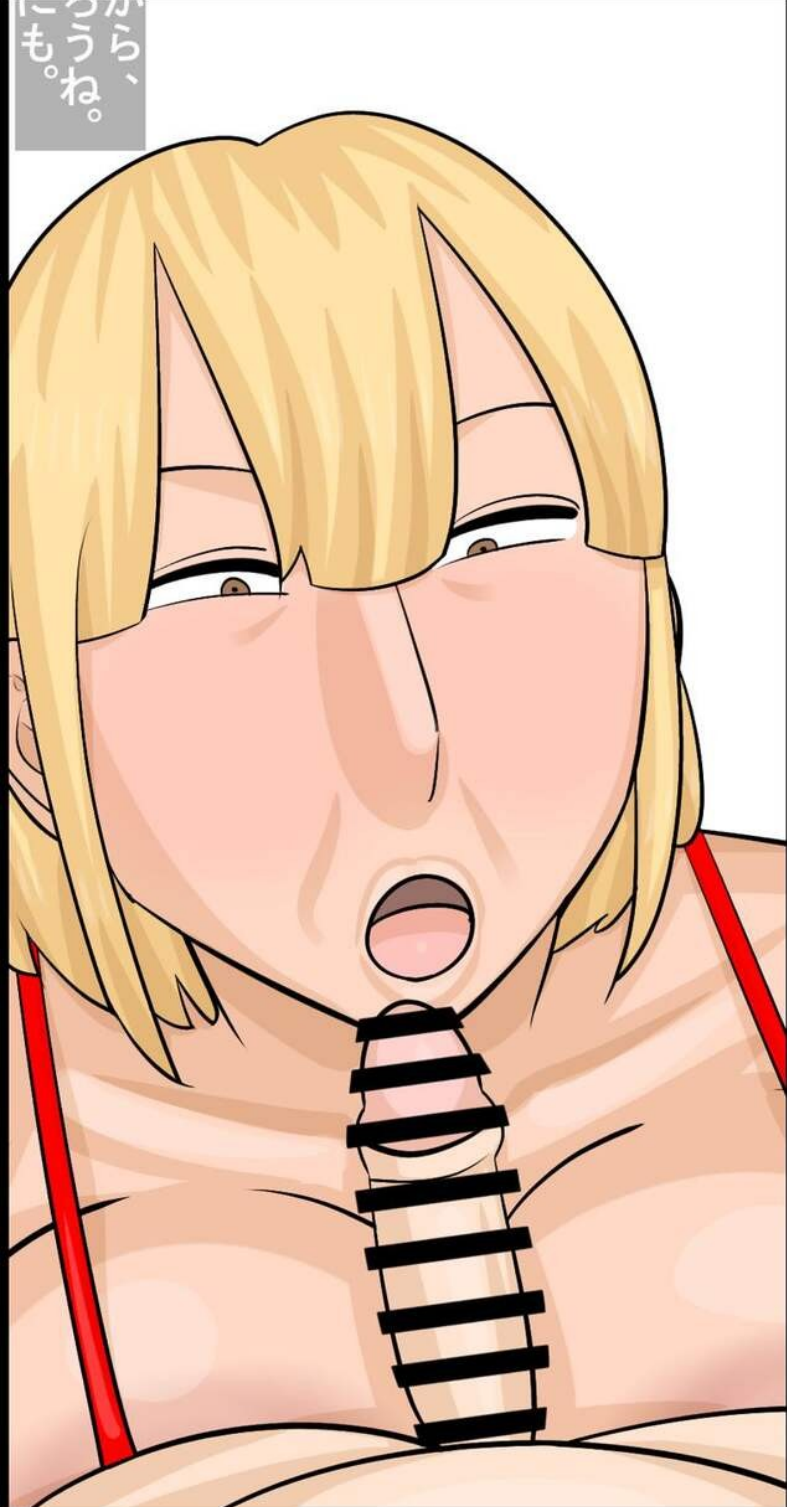
ごめんね。  
ちよっと激しくやりすぎちゃったよね。  
大丈夫？

いっ…いやっ…ごめん…。  
急な出来事で…ちよっと驚いて…。

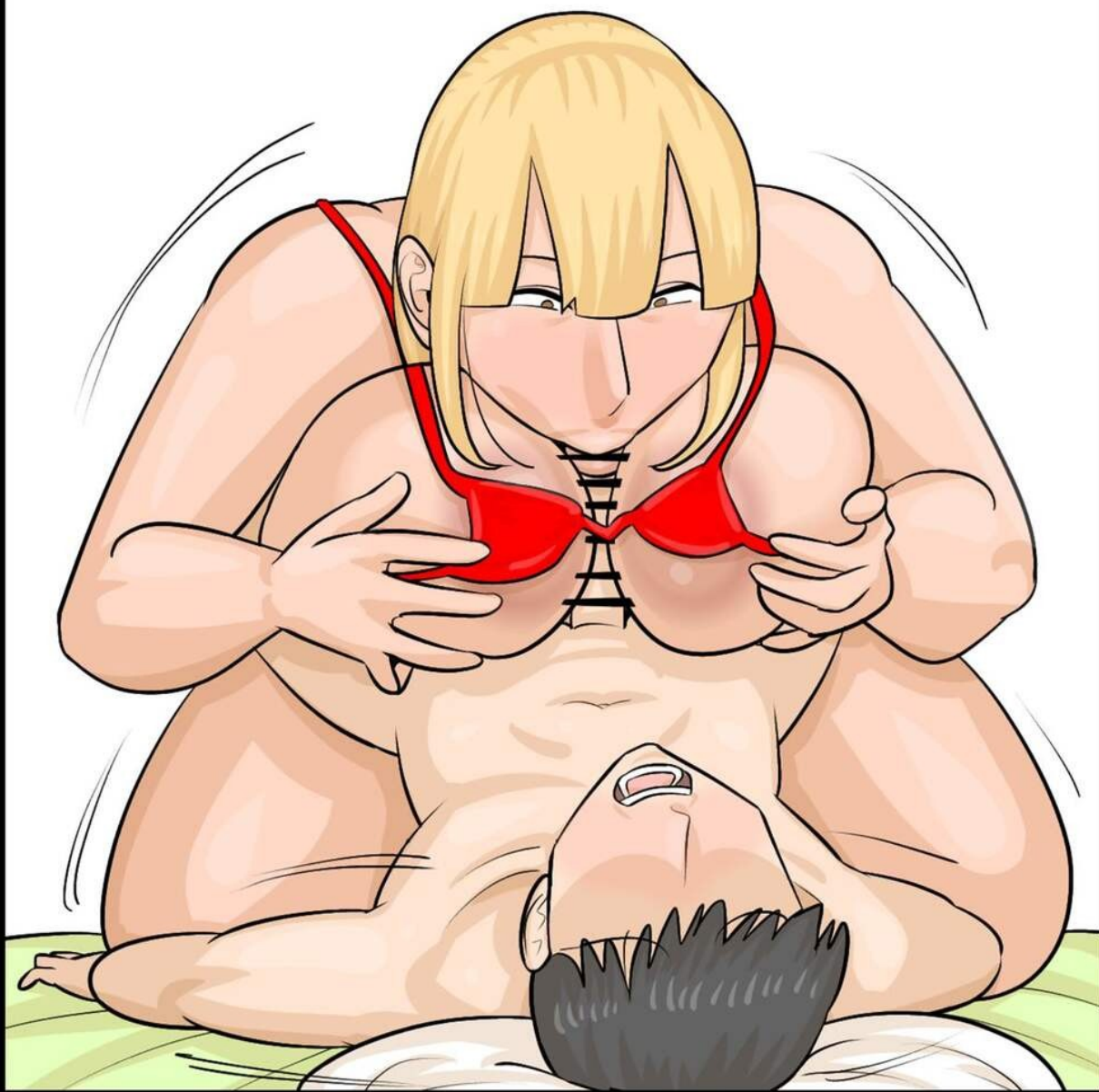
そうだよね。  
驚いちやったよね。  
ごめんね。



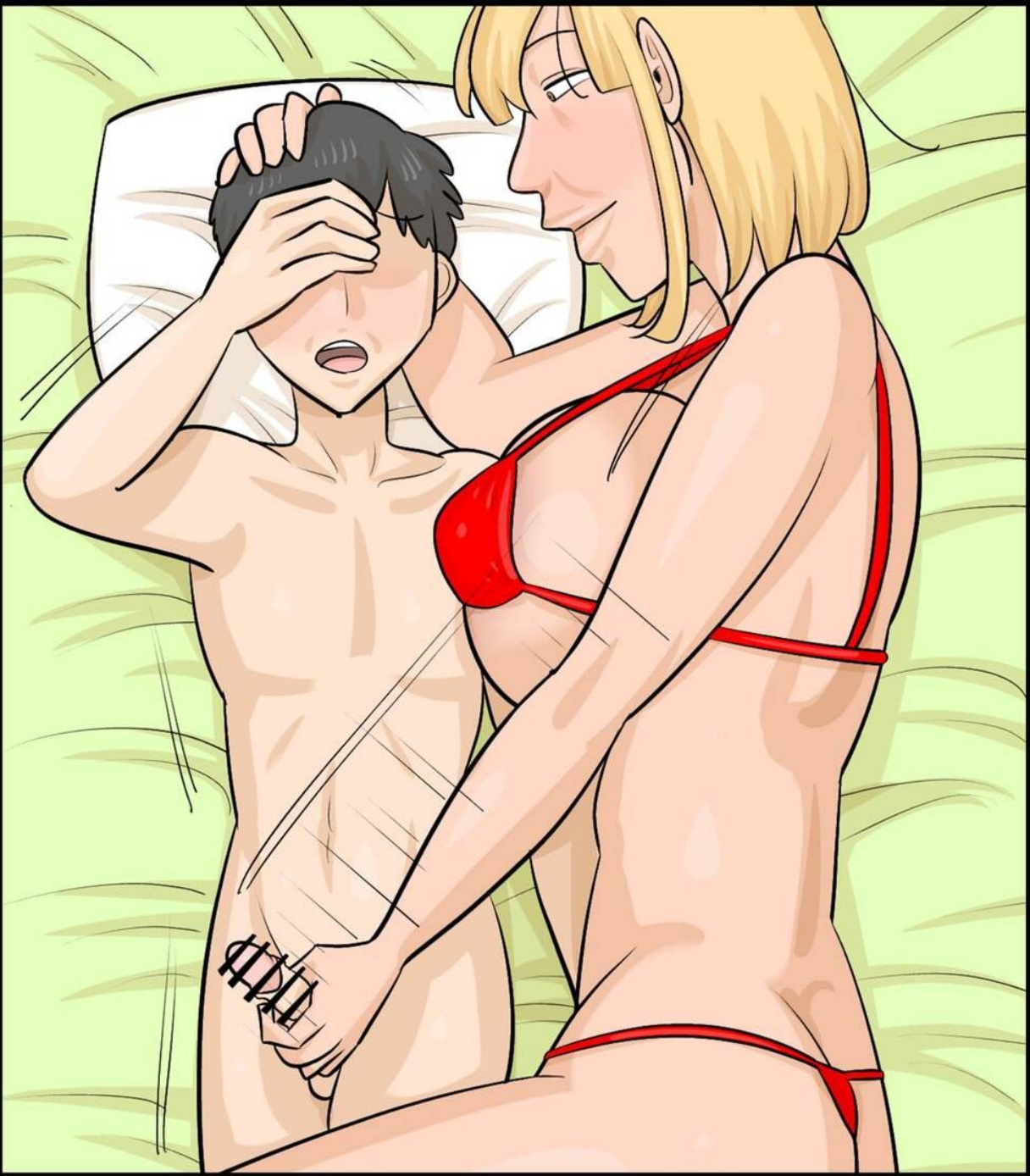
あと少しだから、  
一緒に頑張ろうね。  
彼女のためにも。



んっあっ…いやっ…。



たぶん…射精できないのは、  
メンタル的な問題というのか、  
緊張してるからだと思うの。



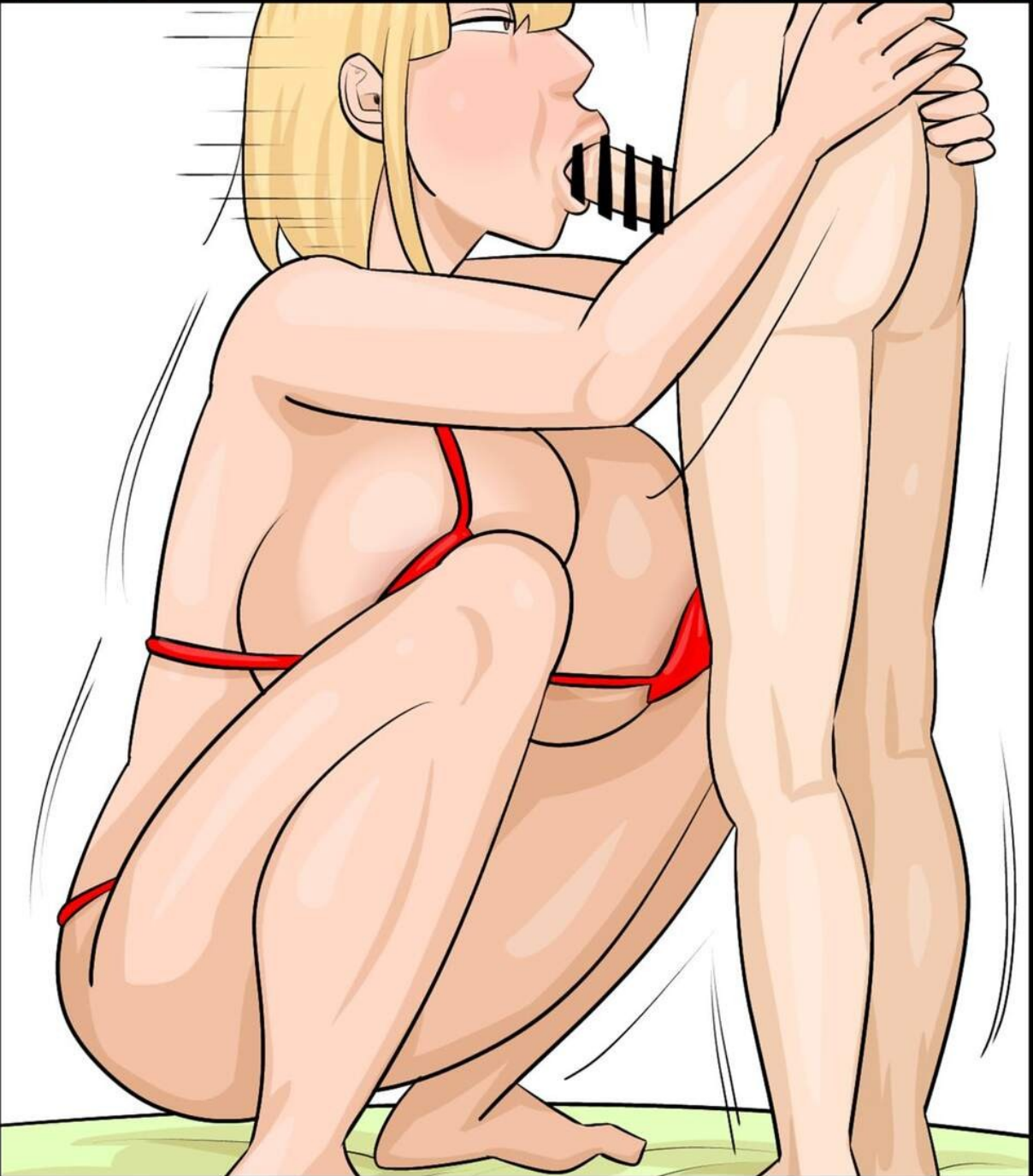
だから…なるべく緊張しないように、  
力抜いて？



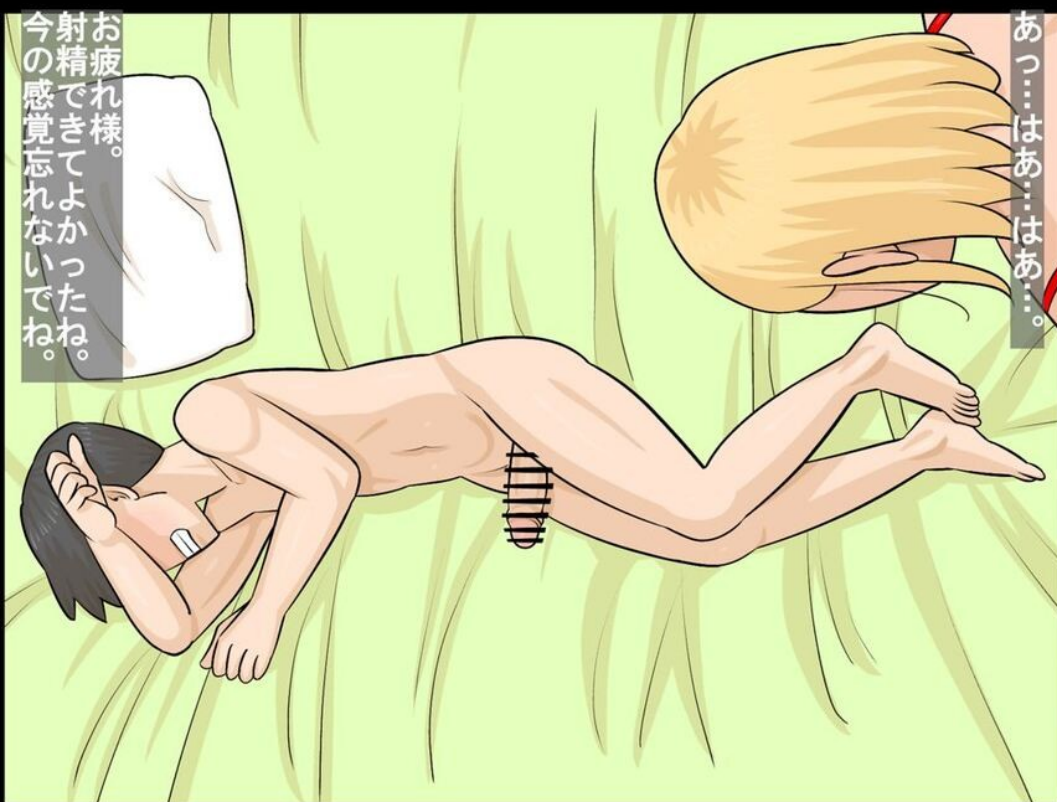
きっ…緊張しないように…。  
緊張しないように…。



あっ...きもちいい...。  
やばい...いくっ...。



ひなこのために...、  
射精できるようならないと...。

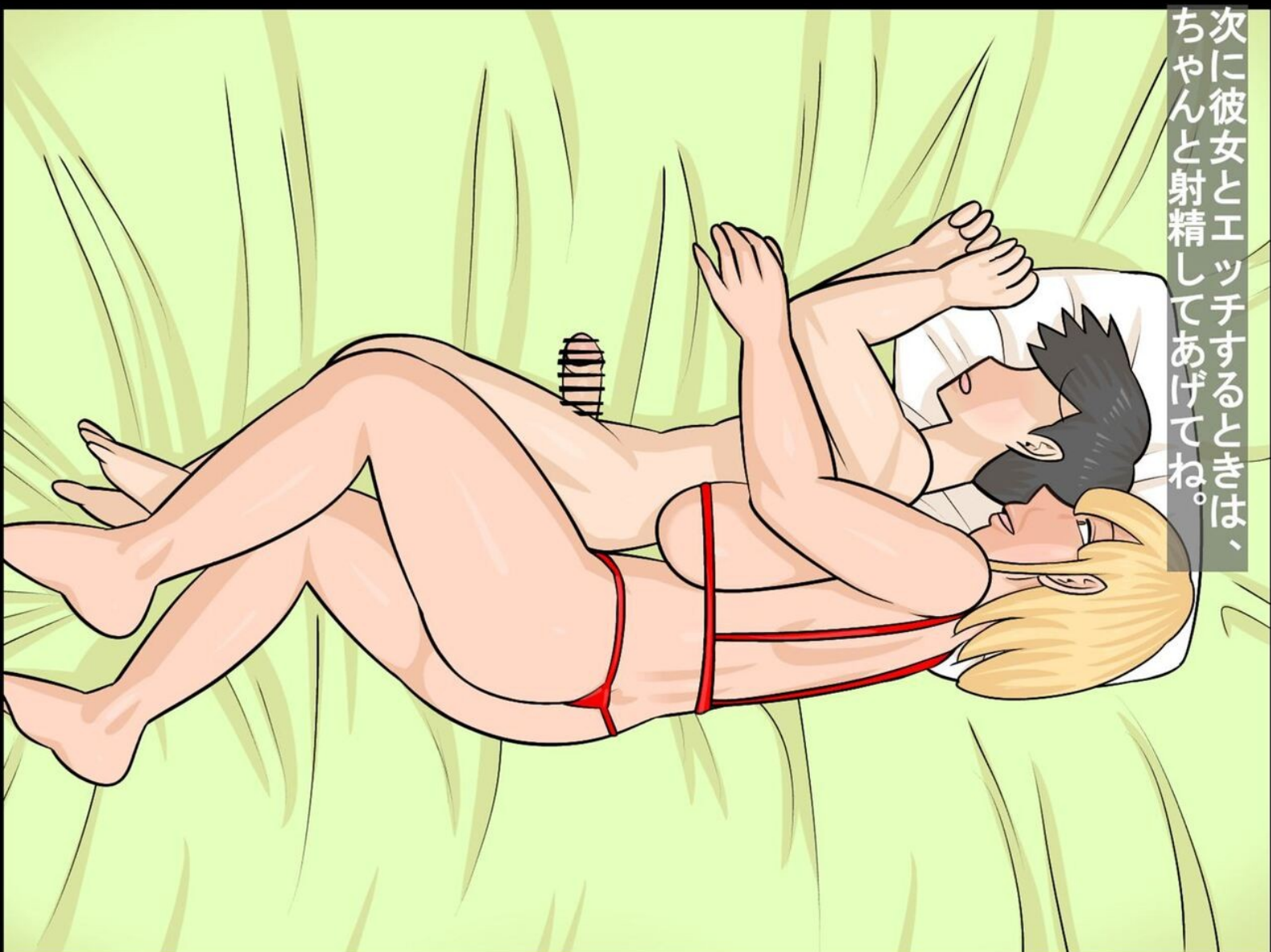


お疲れ様。  
射精できてよかったね。  
今の感覚忘れないでね。

あっ...はあ...はあ...



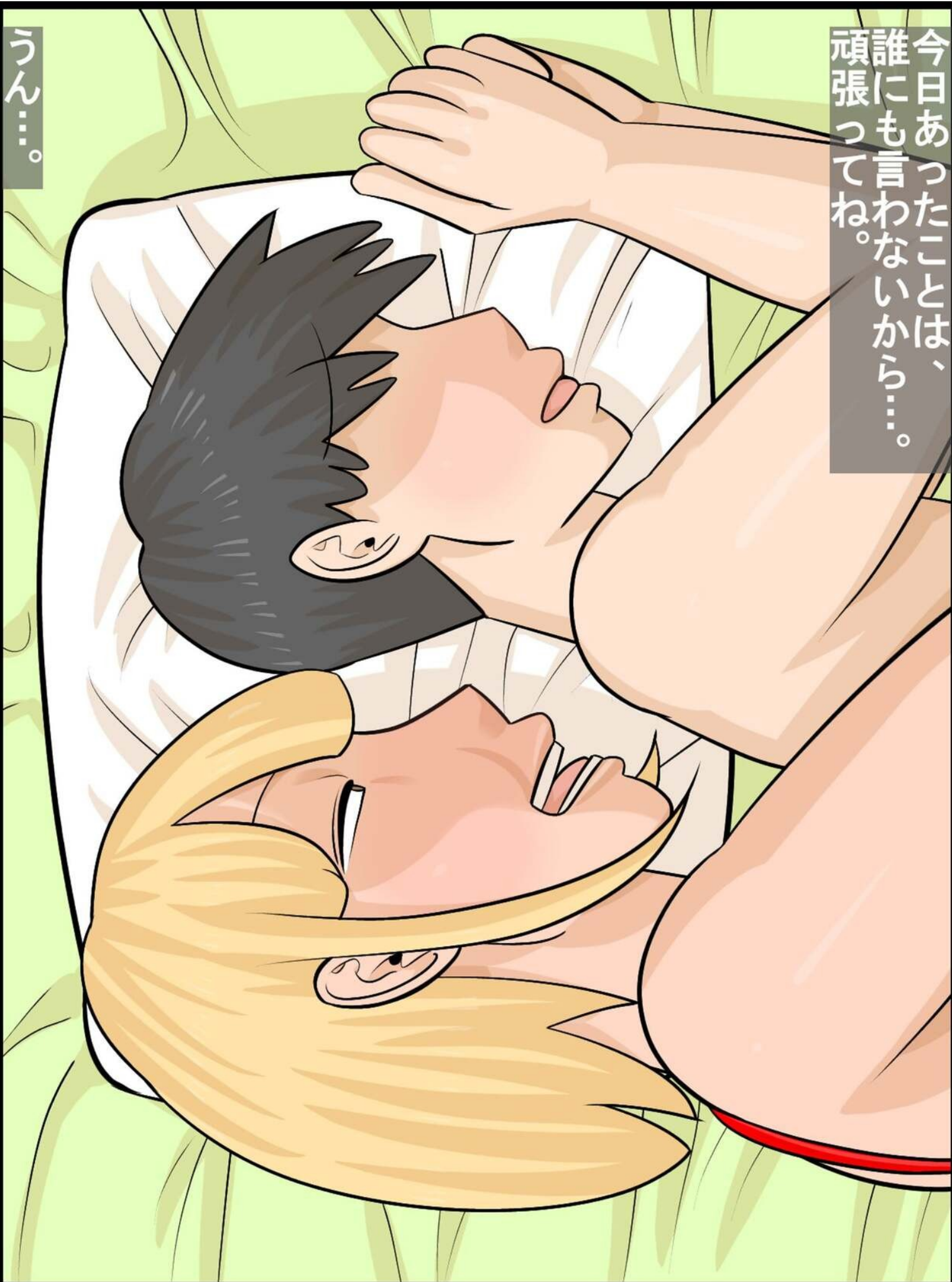
ああ...ああ...ああ...ああ...

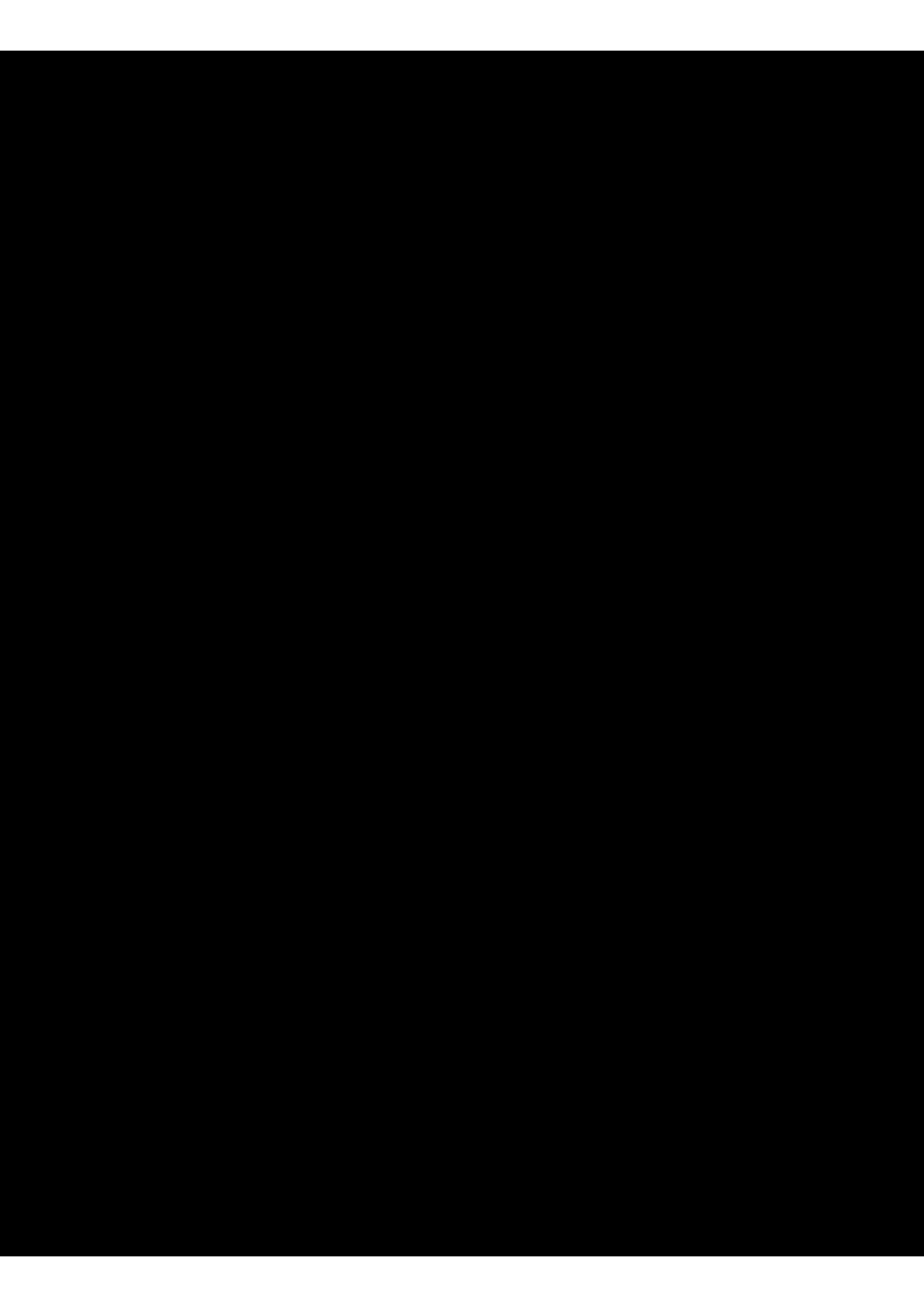


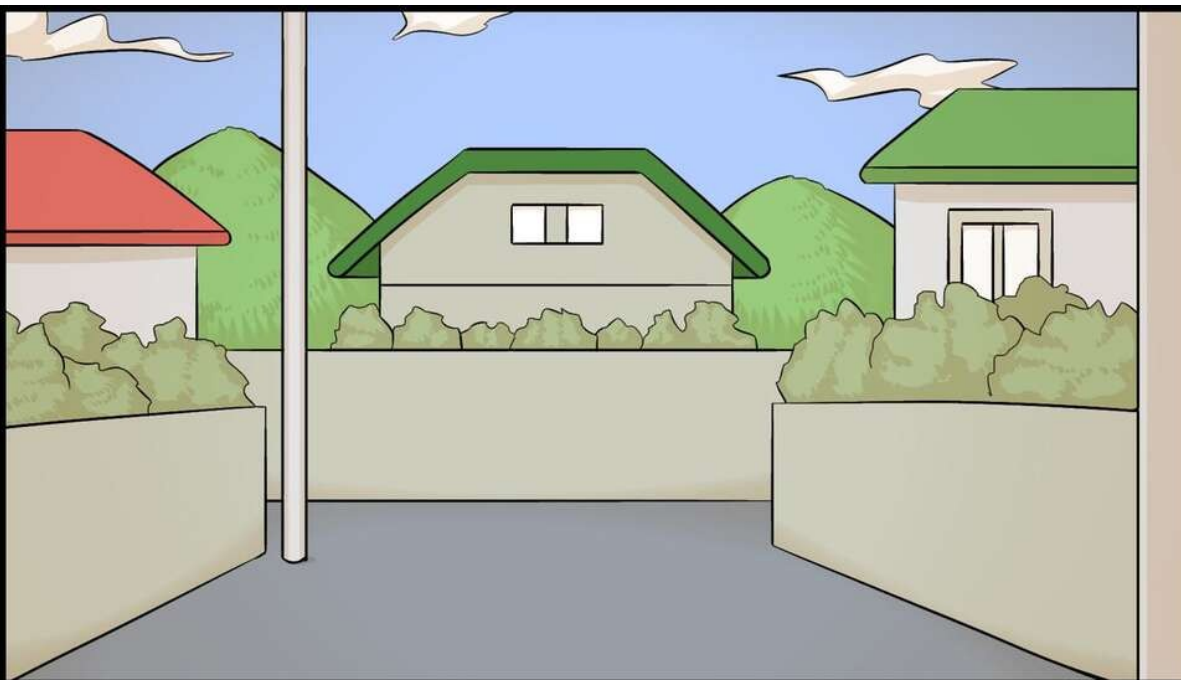
次に彼女とエッチするときは、  
ちゃんと射精してあげてね。

今日あったことは、  
誰にも言わないから……。  
頑張ってたね。

うん……。







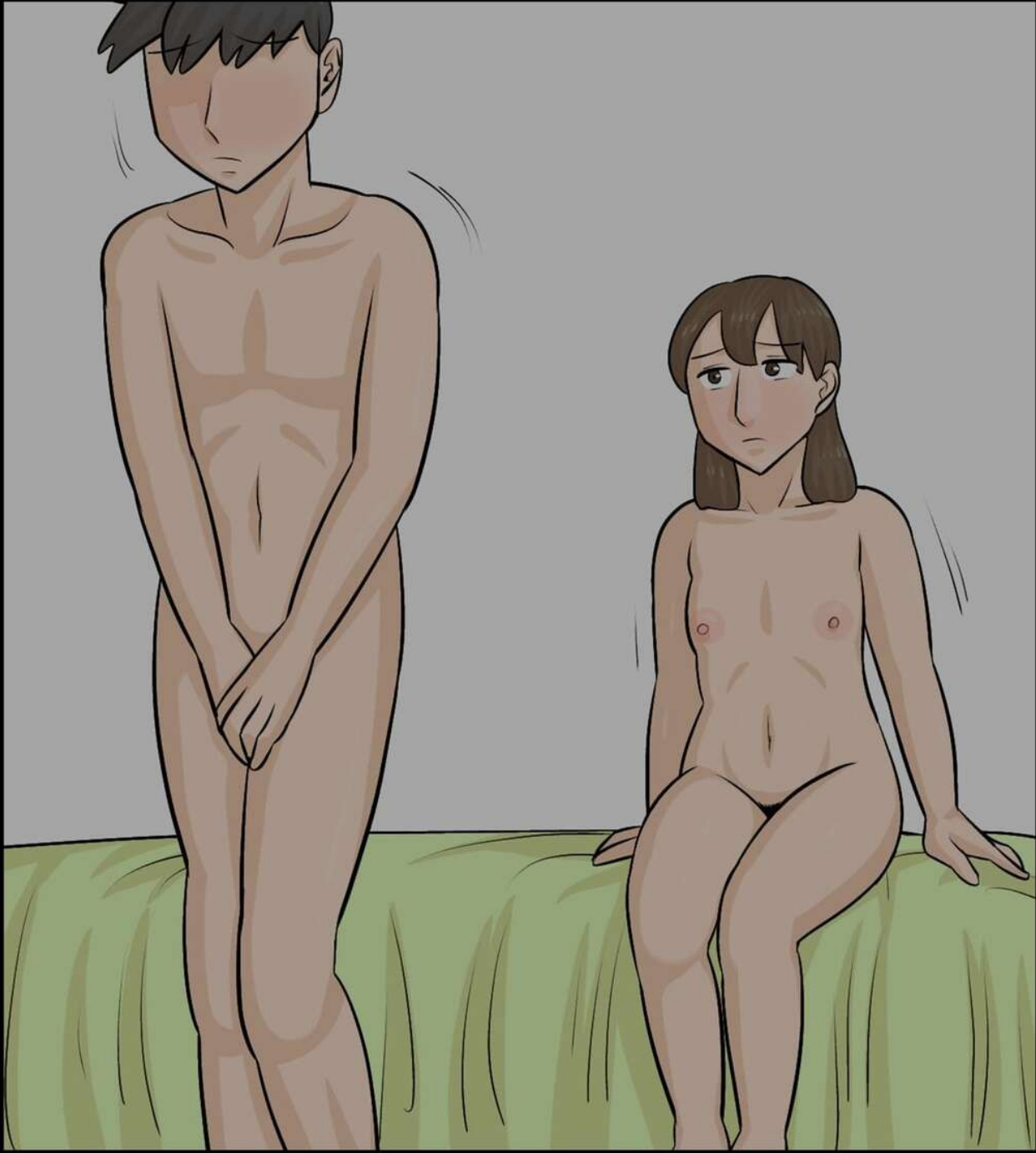
はあ…次はひなこのために、  
射精できるように頑張らないとなー。

ただ…僕…練習とは言えど…、  
なんで鈴木さんと、  
あんなことしちゃったんだ…。



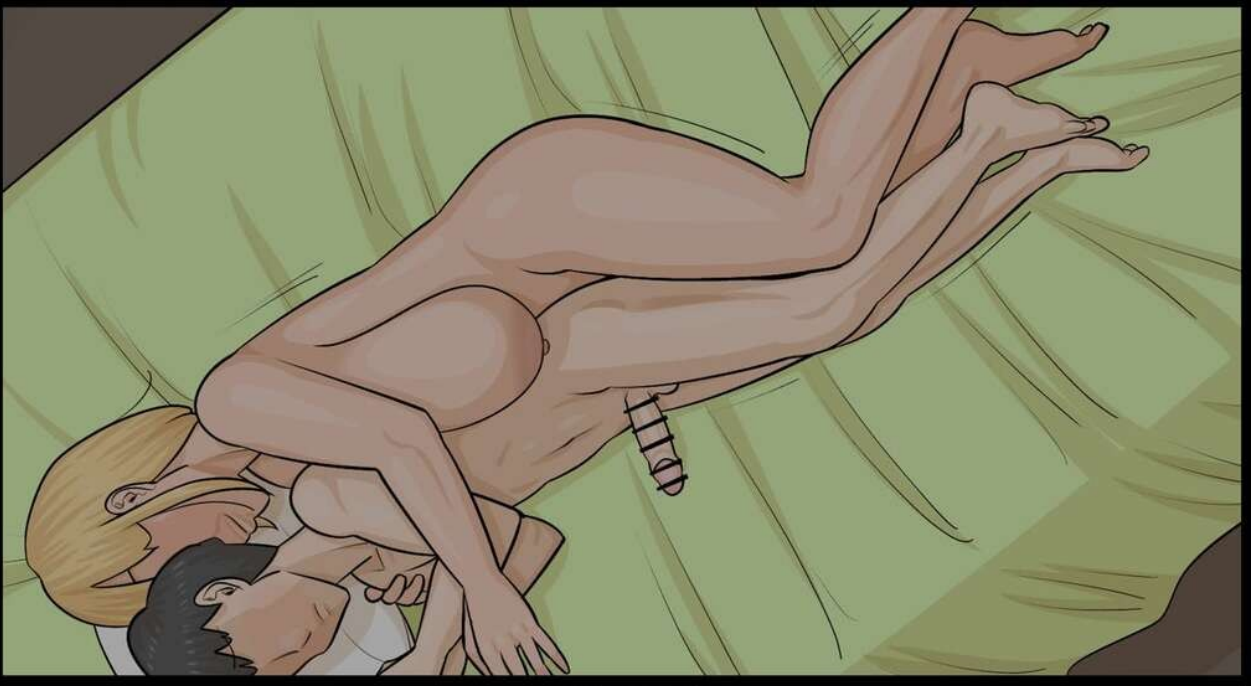
完全に浮気じゃないか…。  
もうあんなこと絶対にしちやダメだ…。  
絶対にしないぞ…。

でも…。

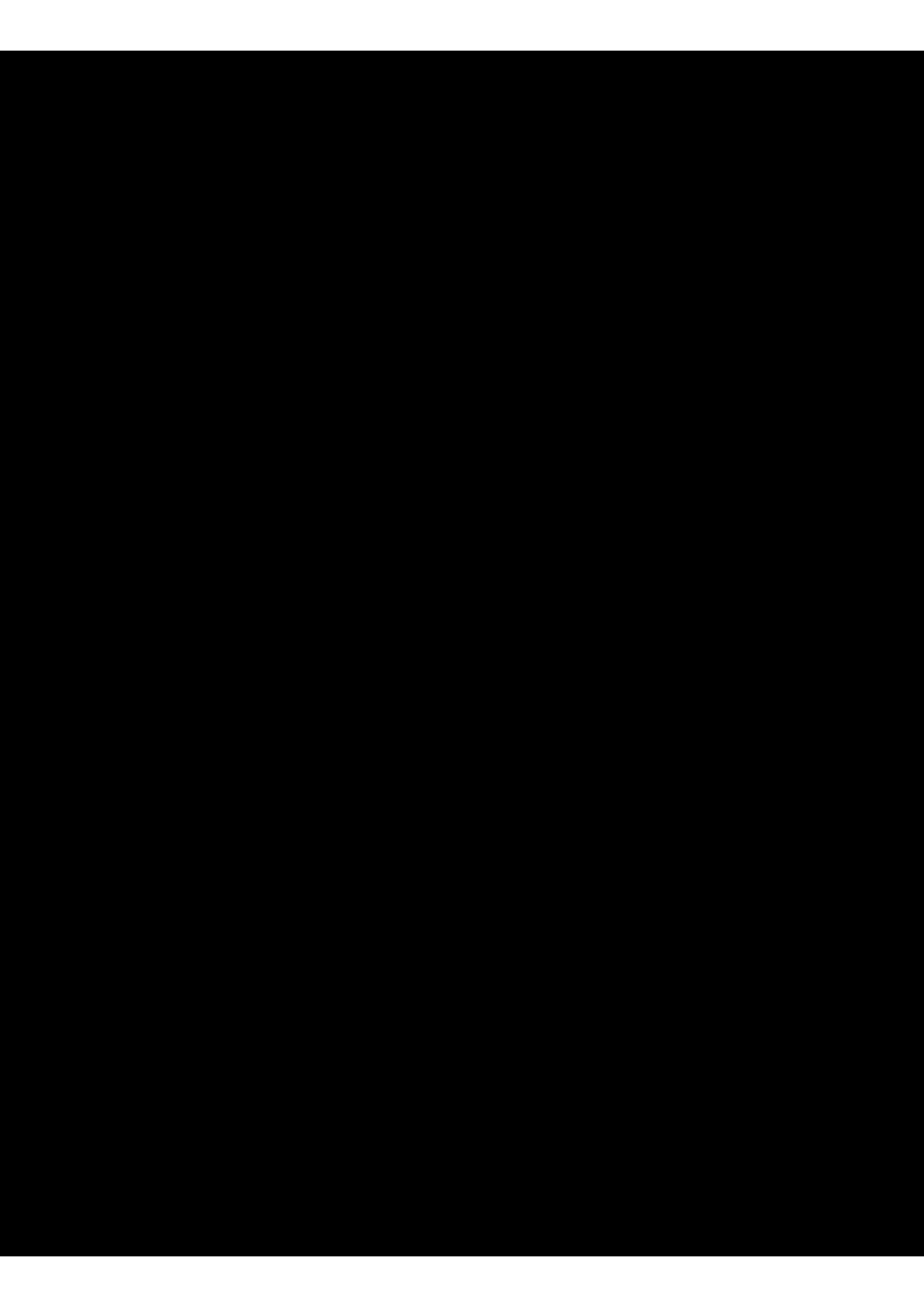


なんでひなことは…、  
挿入しても出せなかったのに…。

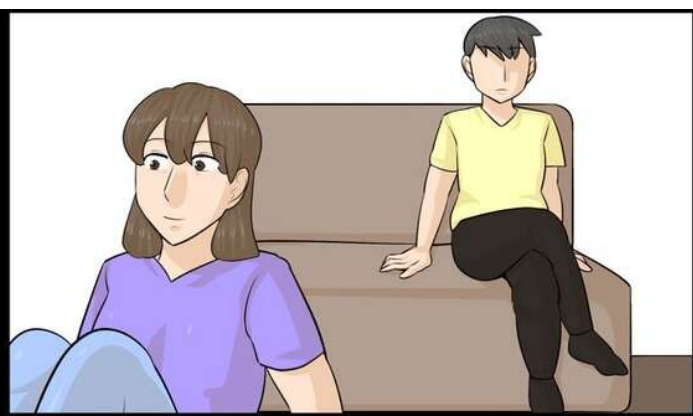
鈴木さんとは、  
挿入もしてないのに……、  
出せたんだろう……。°。



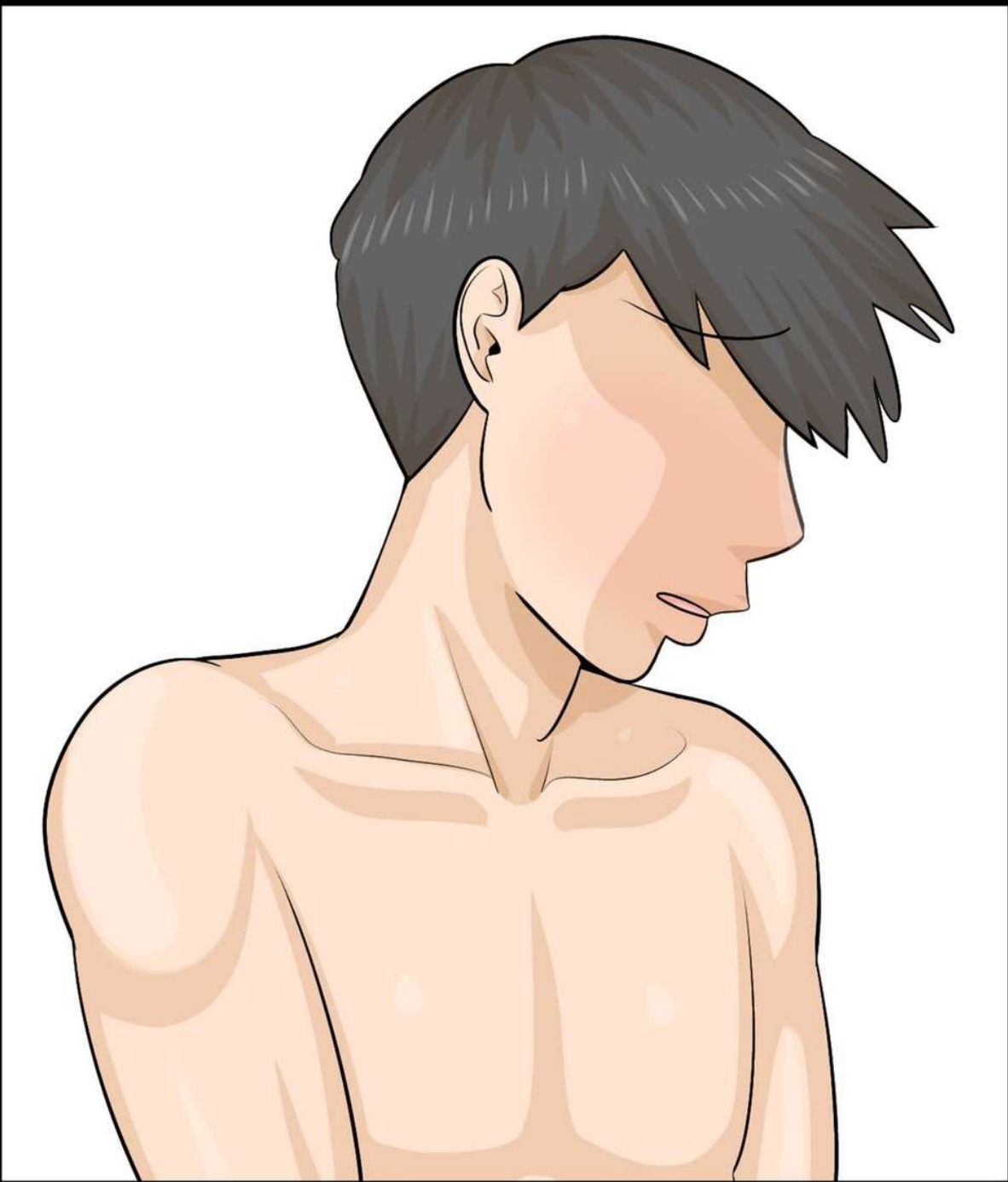
いやいや……ダメだダメだ……。  
あんなこと……忘れないと……。  
僕の彼女はひなこなんだから。



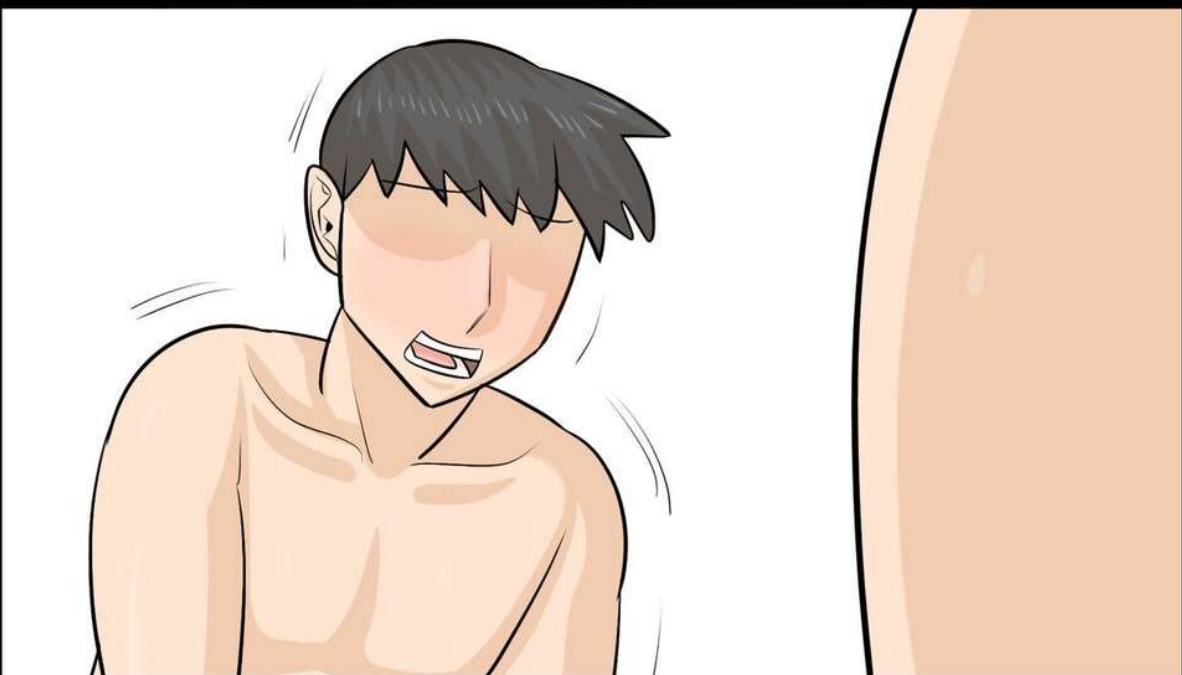
あの...ひな...  
今日...その...どうかな...。





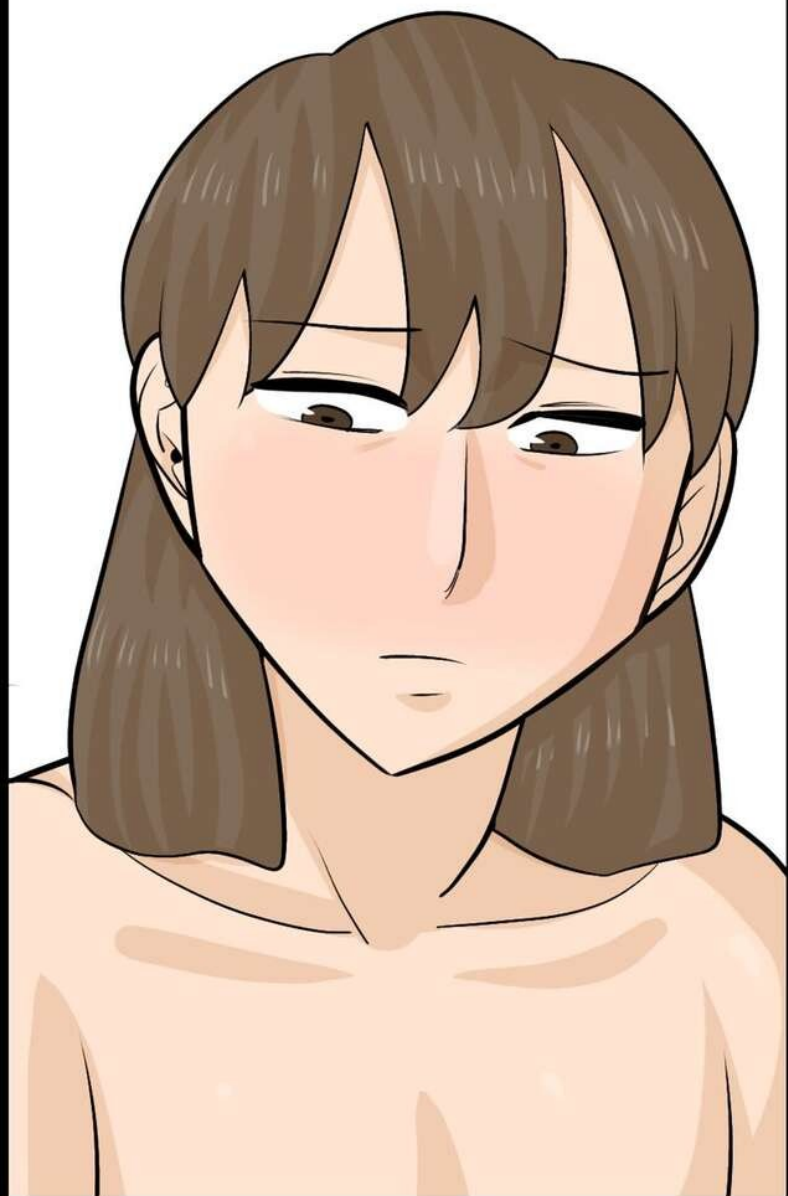


なんでなんだ…。  
鈴木さんの時は、  
ちやんと出せたのに…。

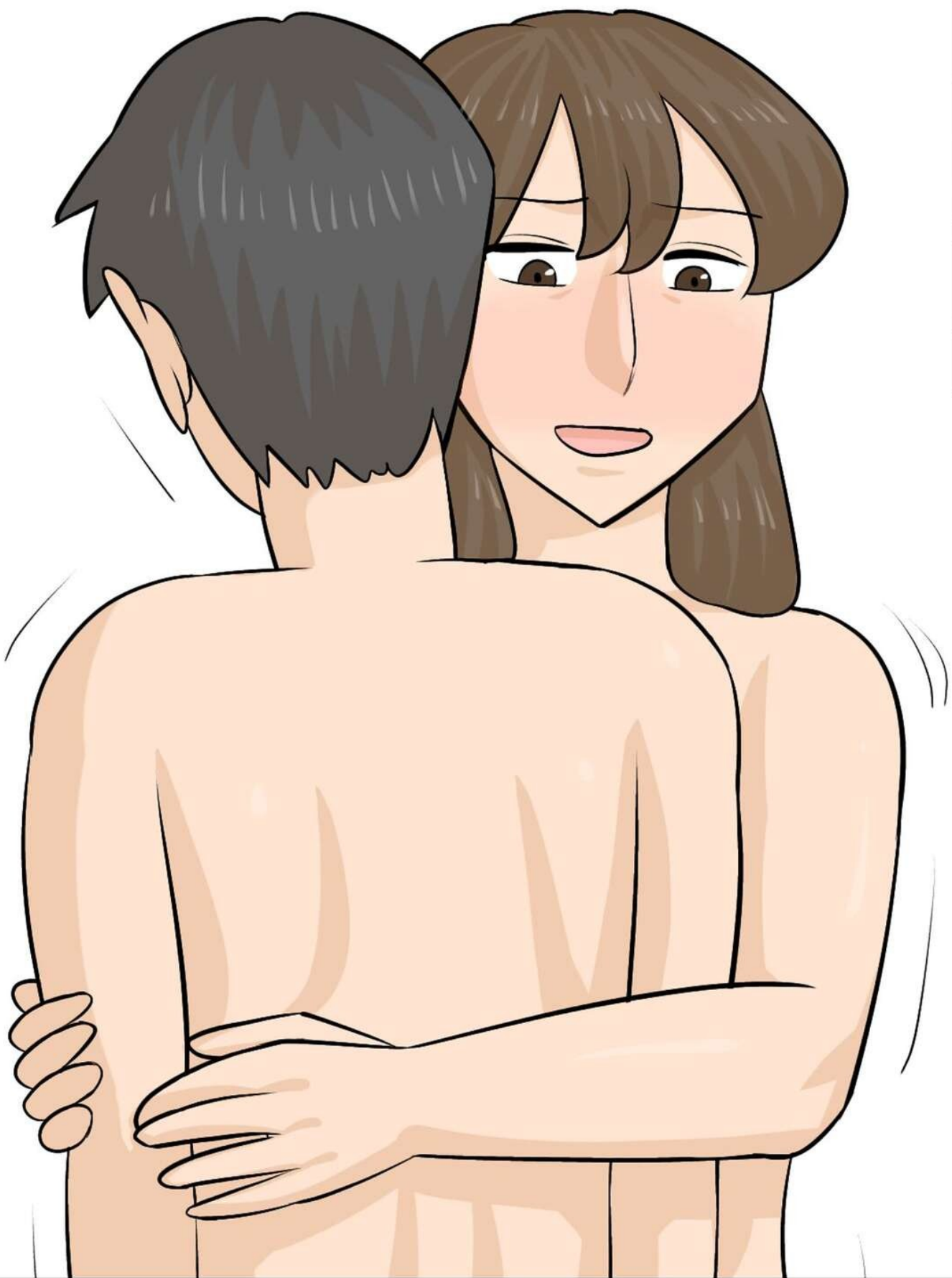


本当に…ごめん…。  
ひなこは悪くないのに…。  
僕のせいで…悩ませちゃって…。

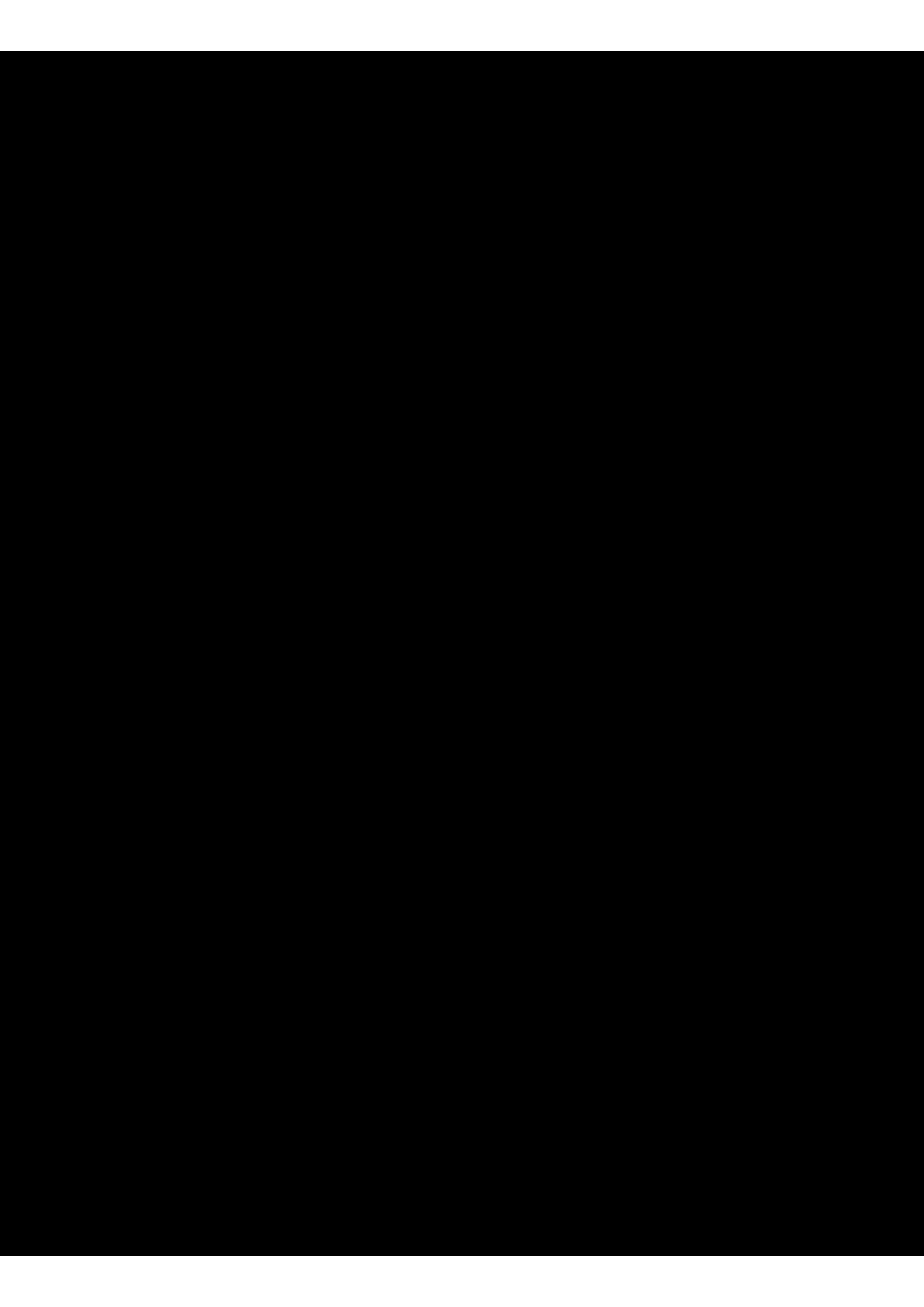
大丈夫だよ…シンスケ…。  
私はシンスケが頑張ってるの知ってるから。

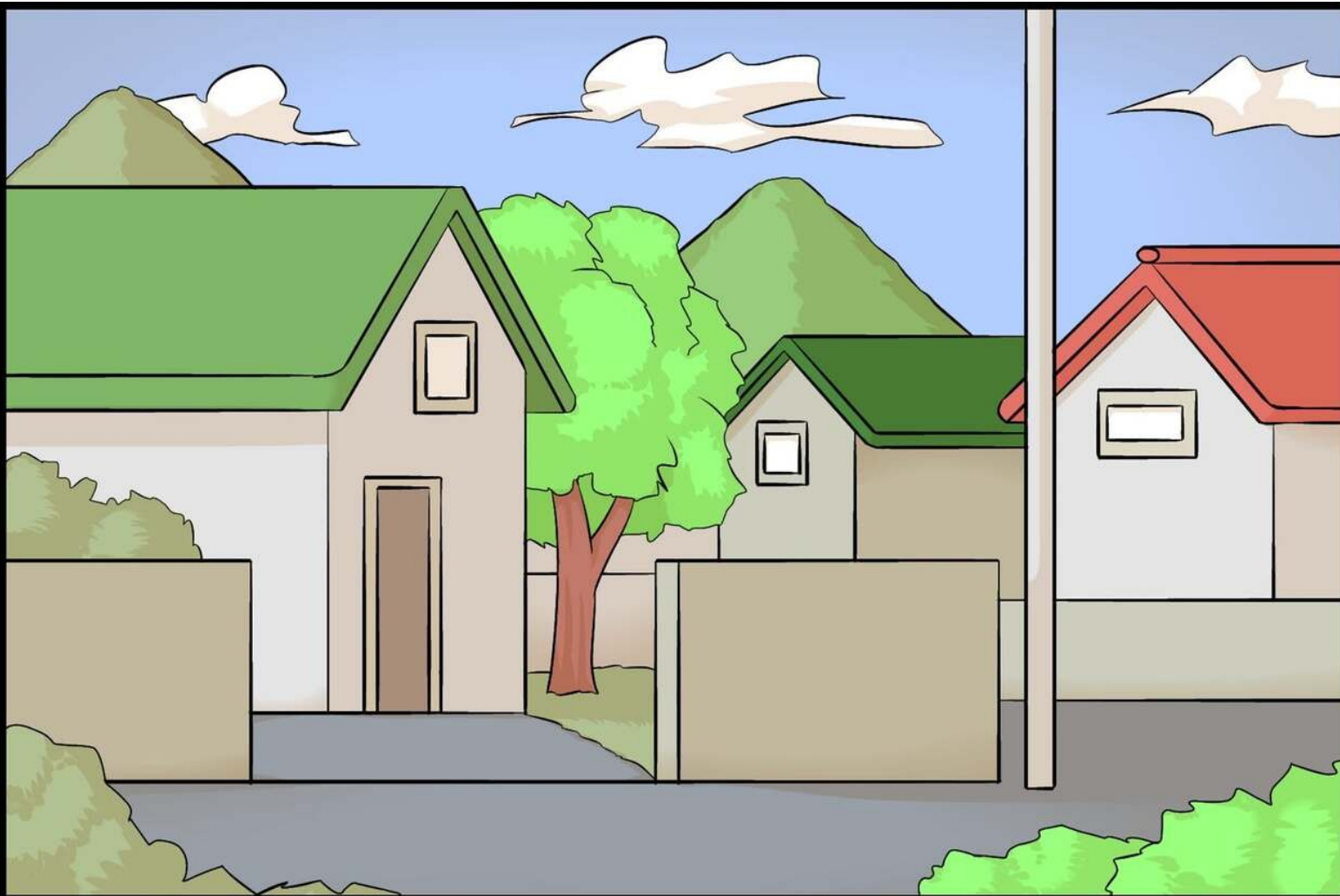


無理しなくていいからね。



ひな「…ありがとう…」。





うん…。



うん…うん…そうなんだね。  
あの後も上手く射精できなかったんだ。



じゃあ…今日も一緒に練習しようか。  
彼女のこと安心させてあげようね。

いやっ…待って…。  
これ以上はっ…。



何言ってるの…。  
練習のために、  
ここに来たんでしょ？

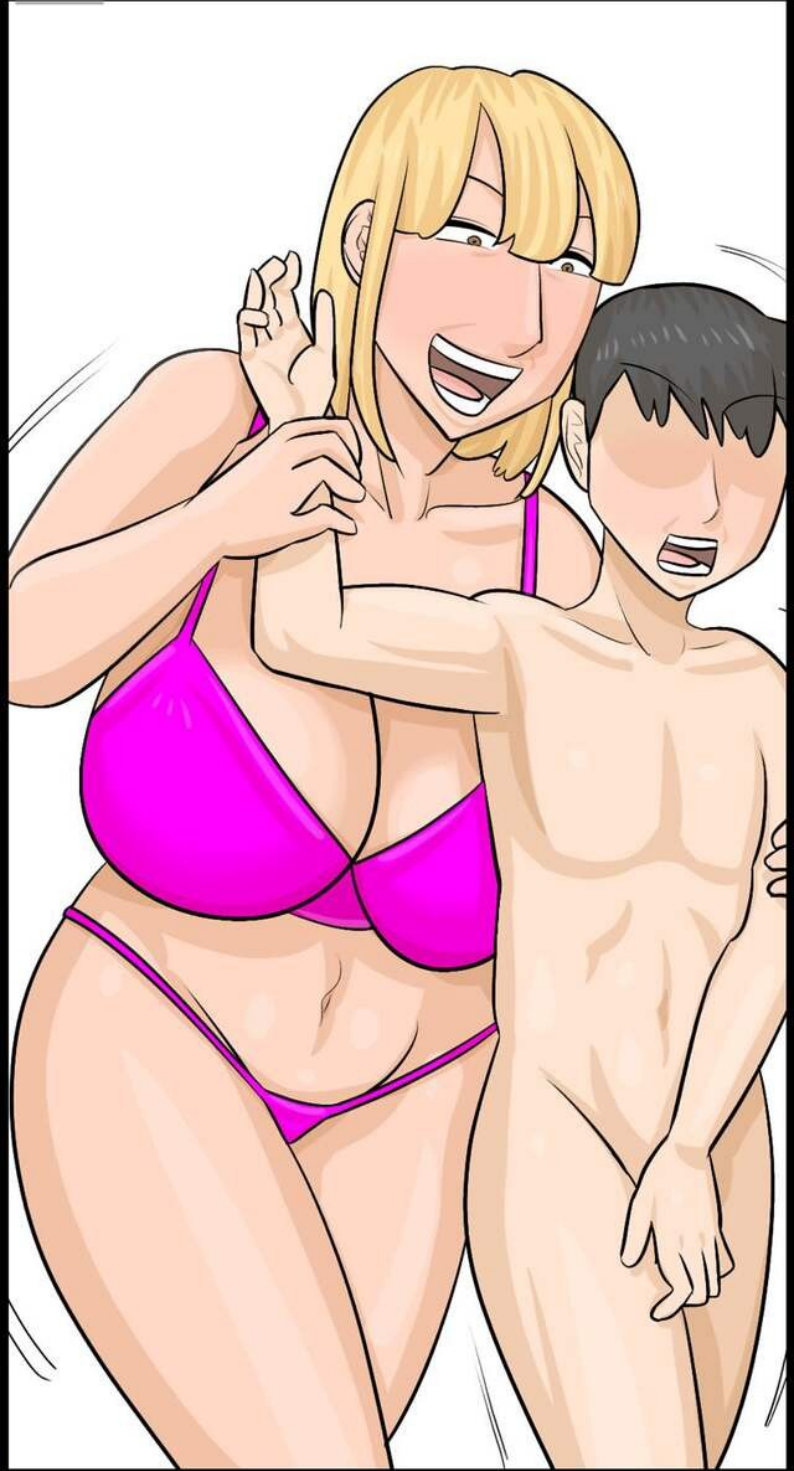
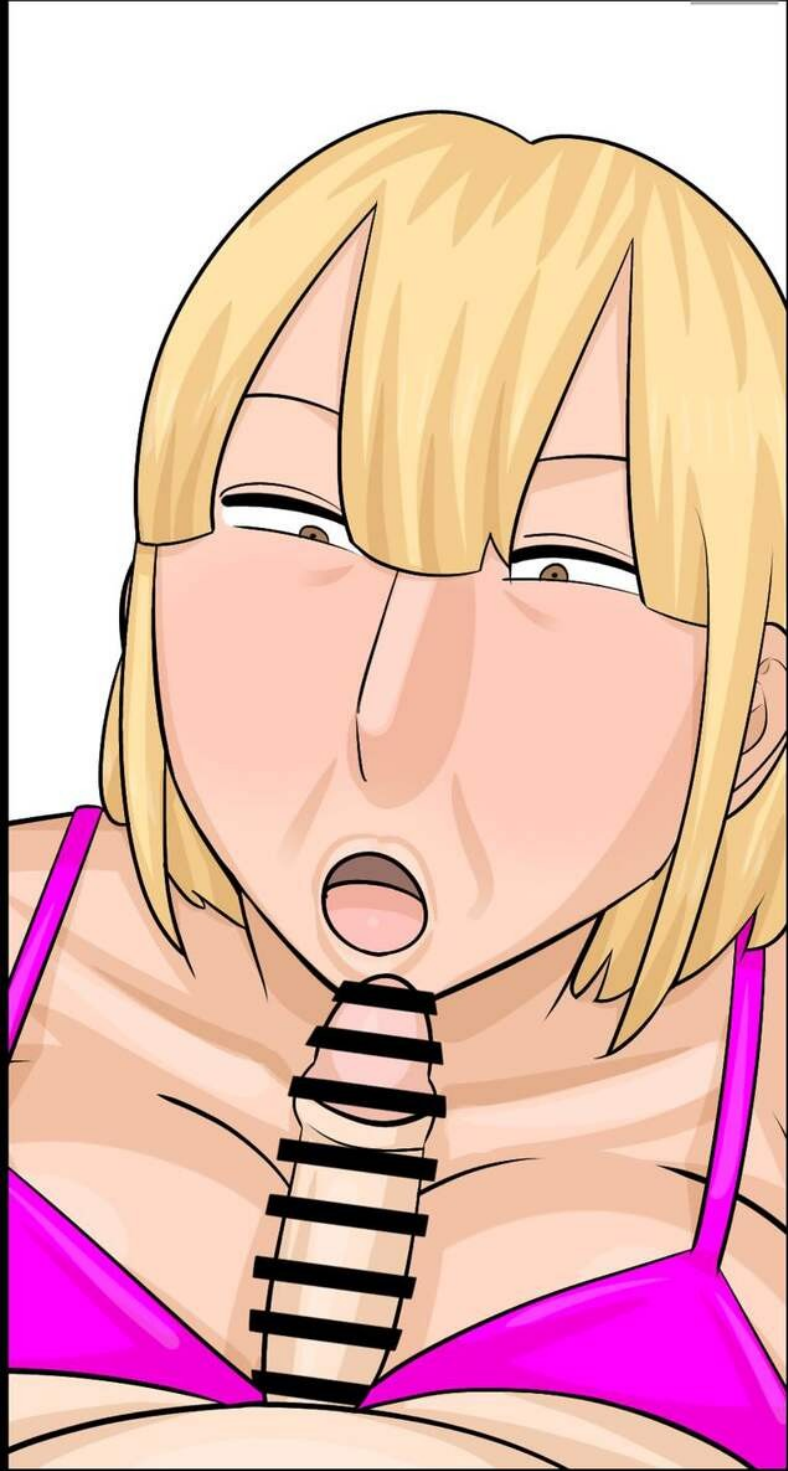
きっちり特訓してあげるから、  
覚悟してね。



あっ…やめてっ…。

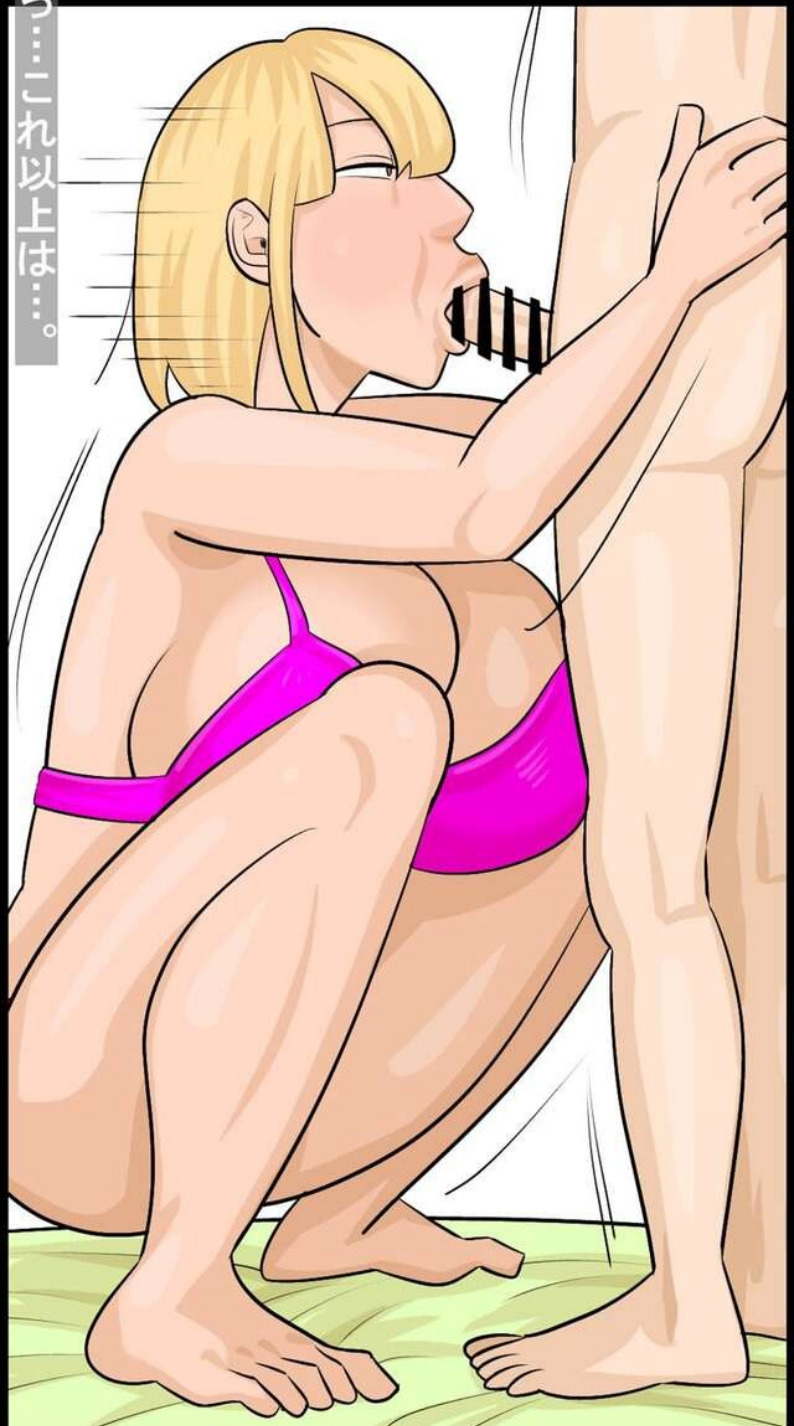
それじゃあ、  
始めよっか。

ほら、  
力抜いて…。



あっ…やめてっ…これ以上は…。

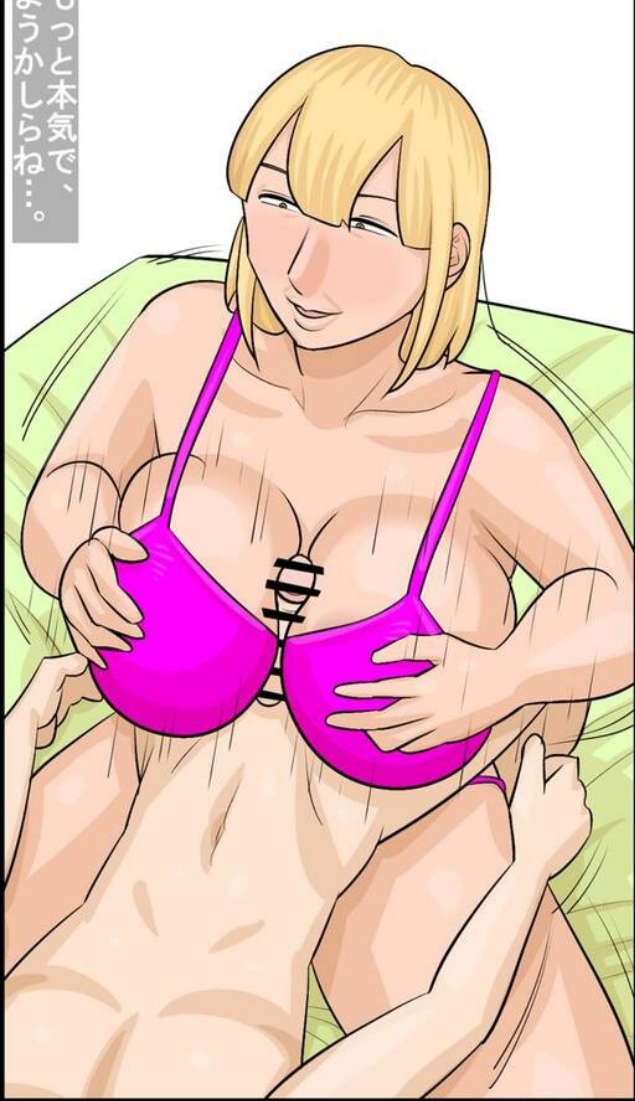
でも…おかしいよね…。  
この前私とやった時は、  
あんなにいっぱい出せてたのね。



あつ...それはっ...  
んっ。



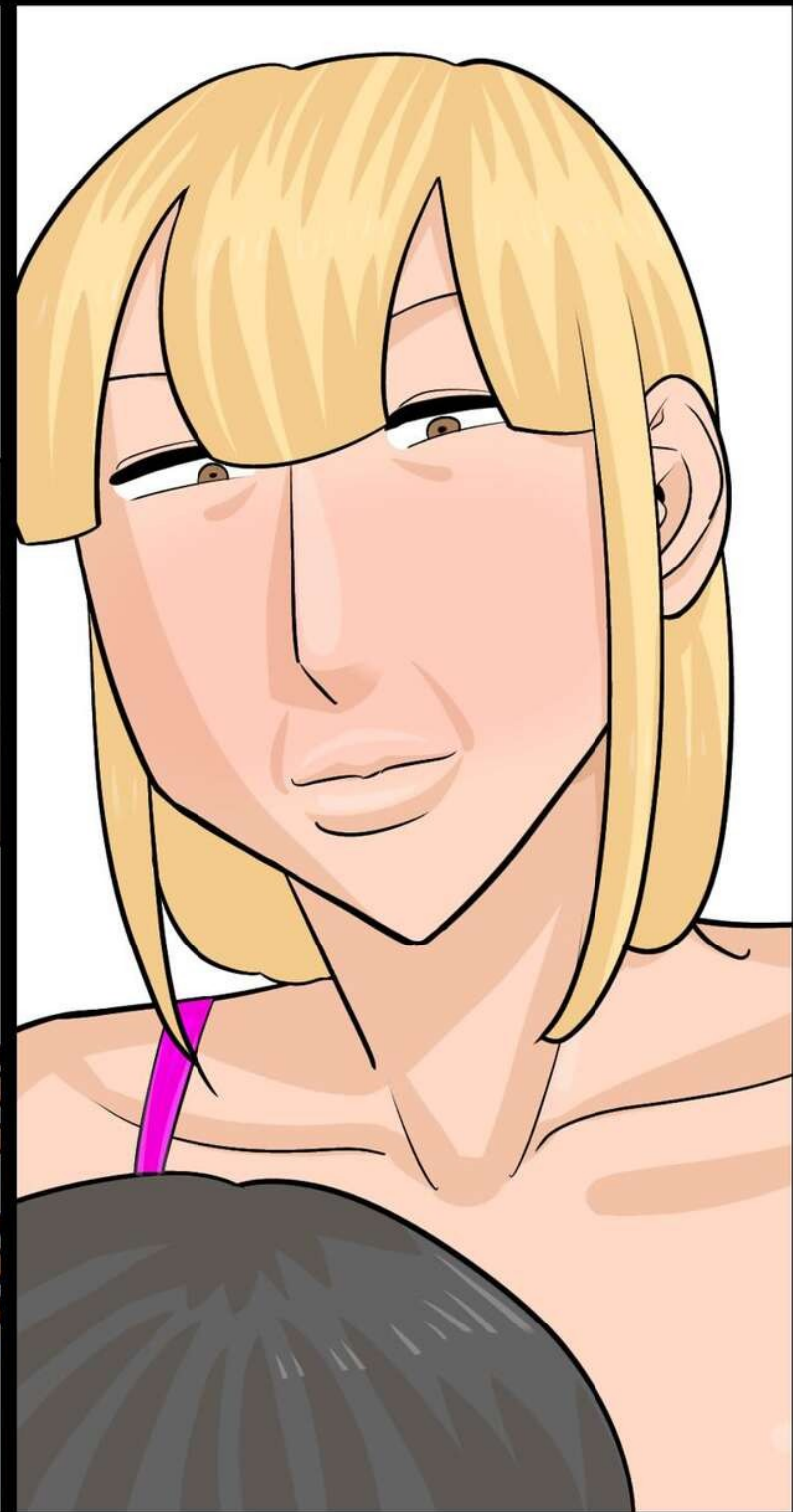
今日はもっと本気で、  
練習しようかしらね...。



んっ...えっ...?  
本気でっ...っ...っ...



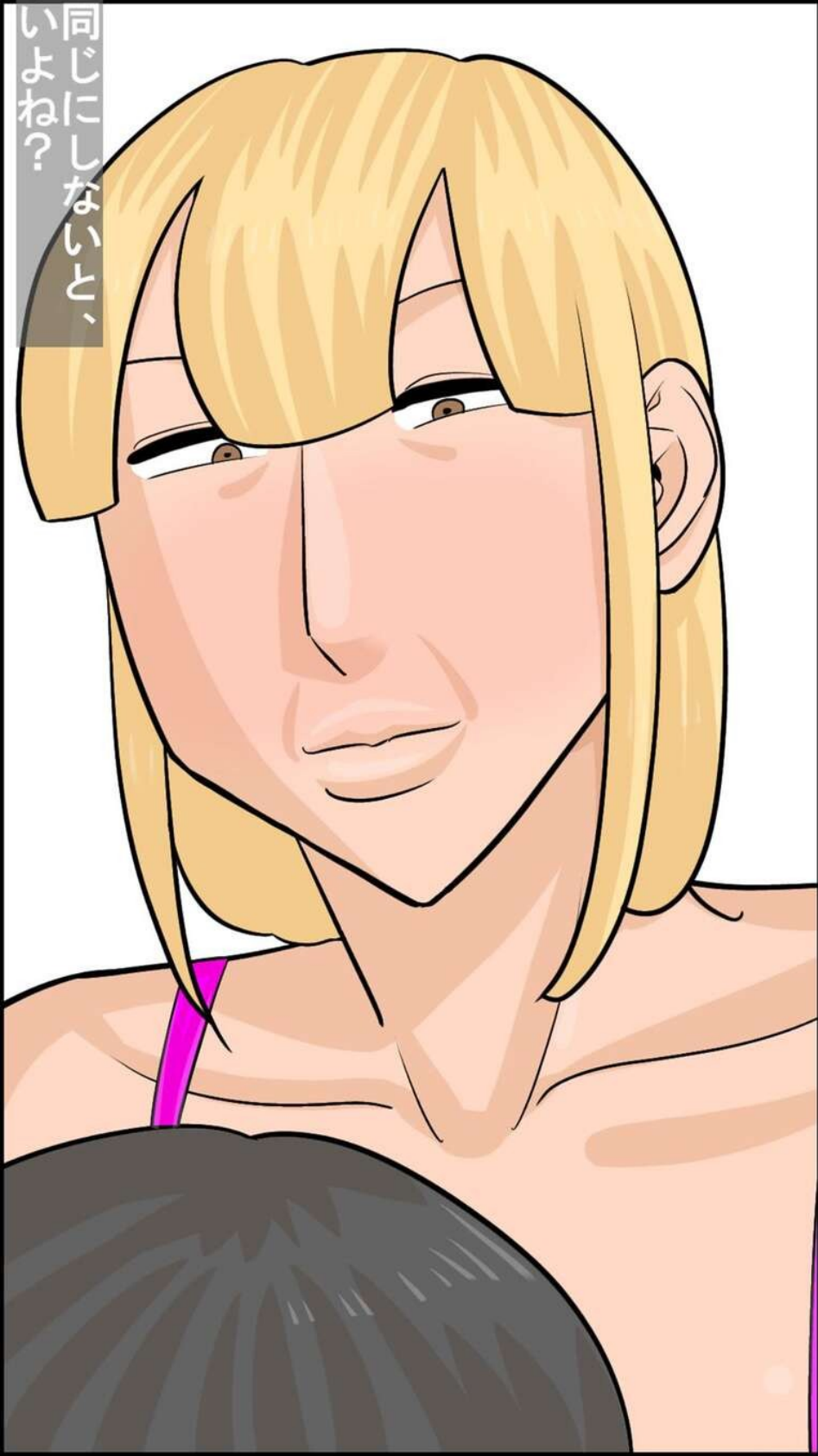
私とエッチしよ？



えっ…？



条件は同じにしないと、意味ないよね？

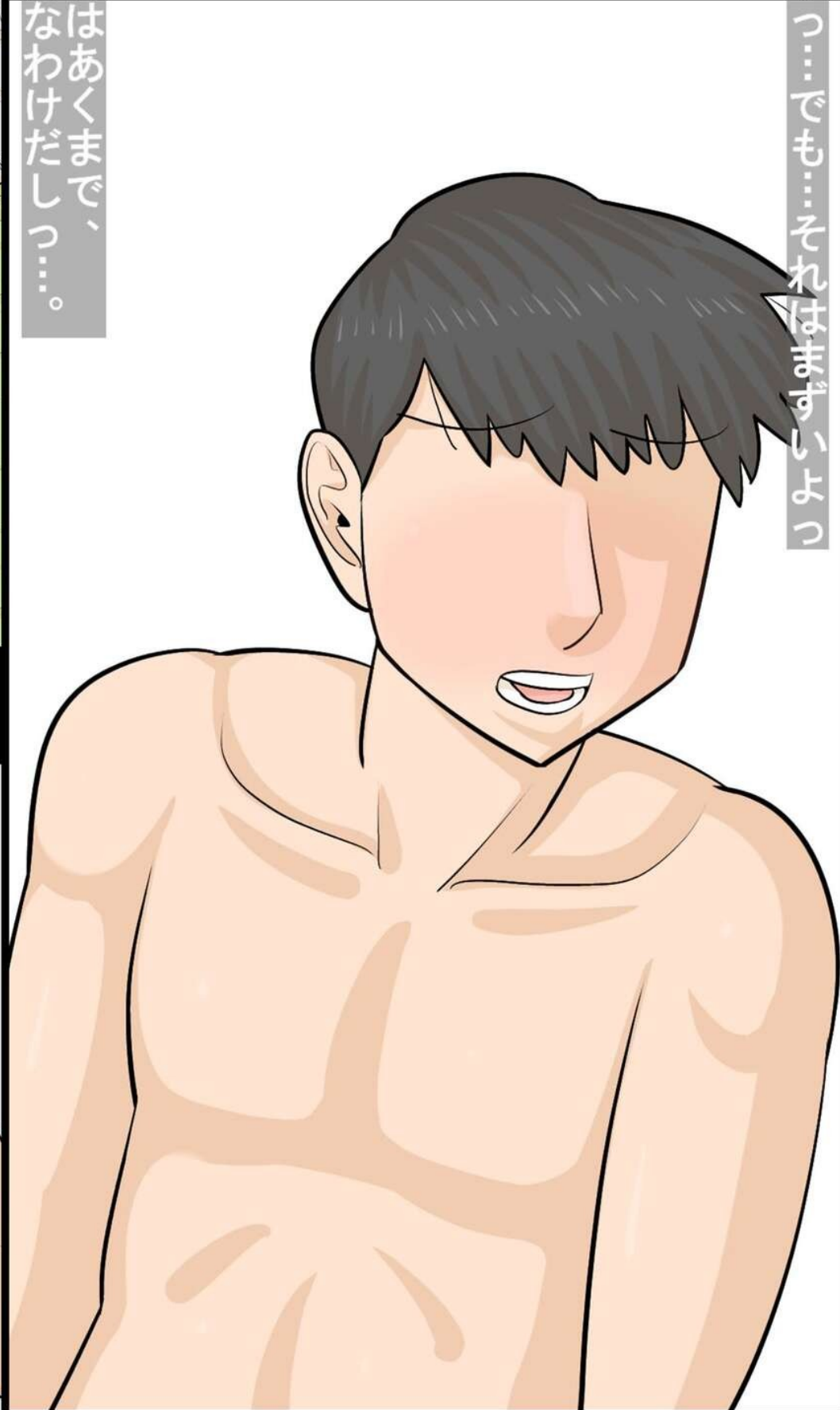


そうしないと、練習にならないんじゃないかな！



あんたは挿入して、射精できてないわけだし…。

いやっ…でも…それはまずいよっ



これはあくまで、  
練習なわけだしっ…。

えー、  
いいじゃないそれくらい。  
彼女のためなのよ？



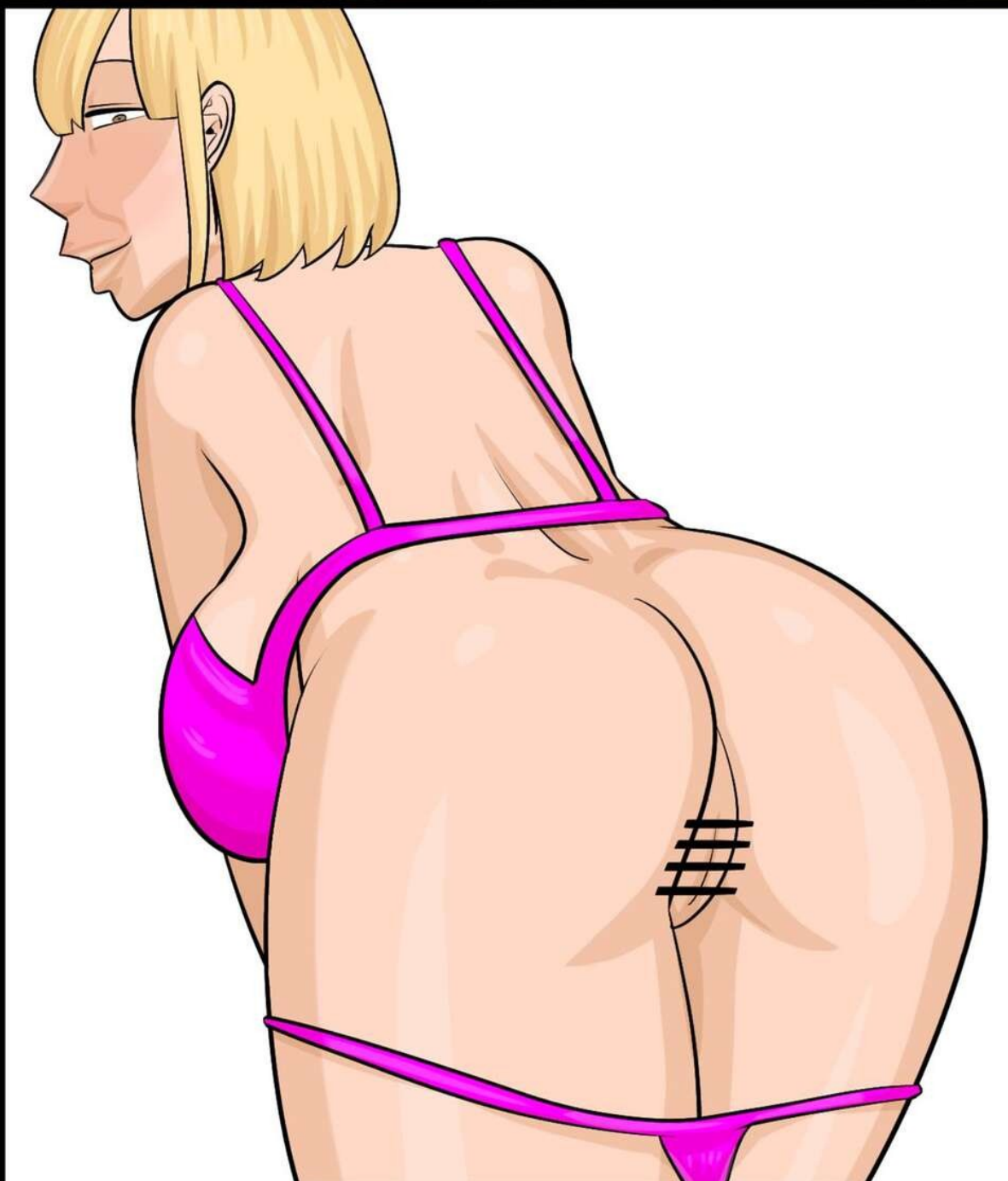
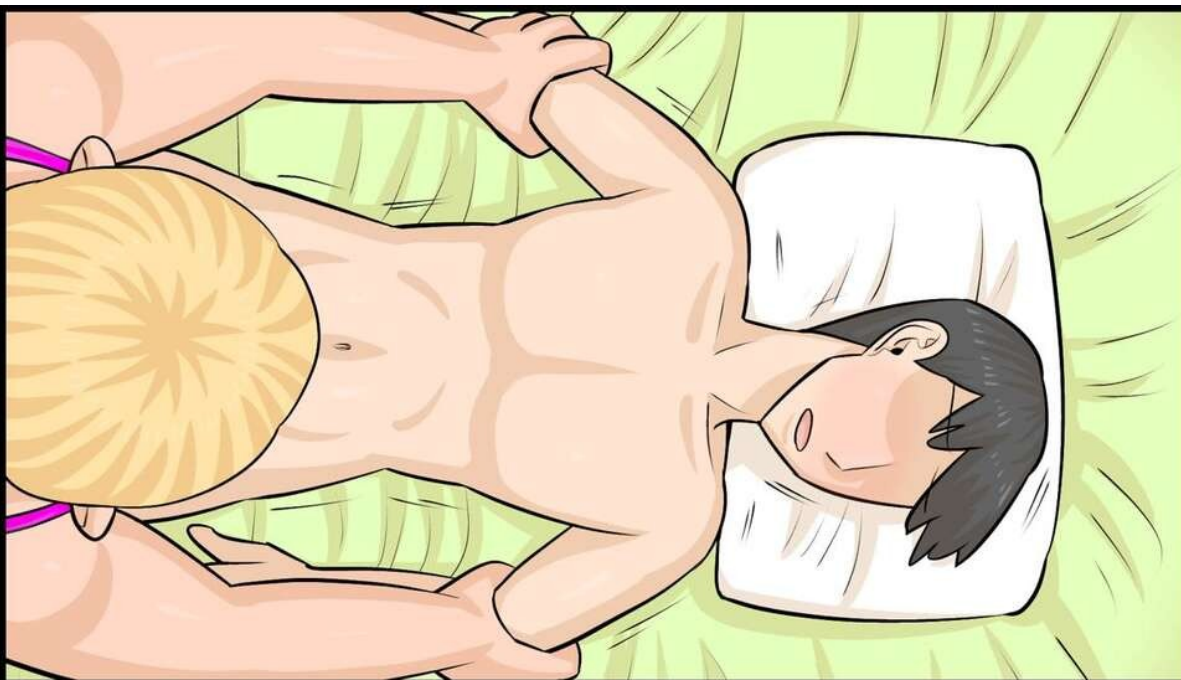
彼女とエッチしたとき、  
また出せなくなってもいいの？



また…射精できない…。



わかったよ…。



エッチ…。

エッチ…。

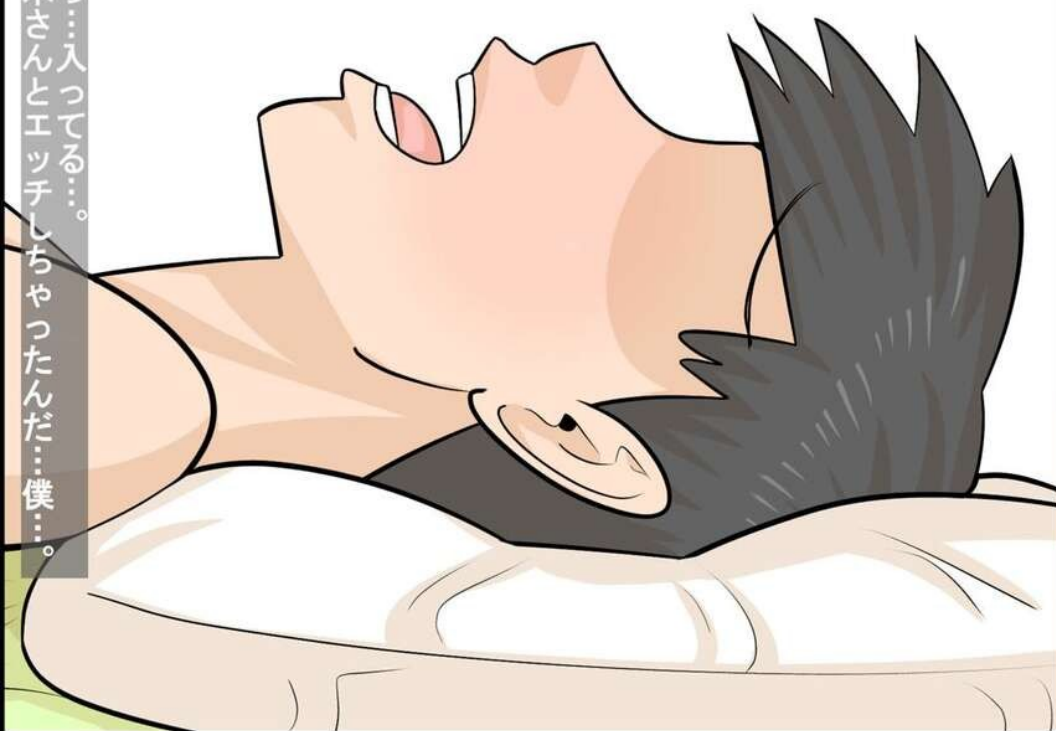
鈴木さんと…エッチ…。



それじゃあ、  
入れちゃうね？  
いくよ？



あつ…入ってる…。  
鈴木さんとエッチしちゃったんだ…僕…。



あつ…入った…。



それじゃあ、  
動くね？



あつ…んっ…あんっ…。

あつ…すごいひなことのエッチの時は、  
僕がずっと動いてたけど…。



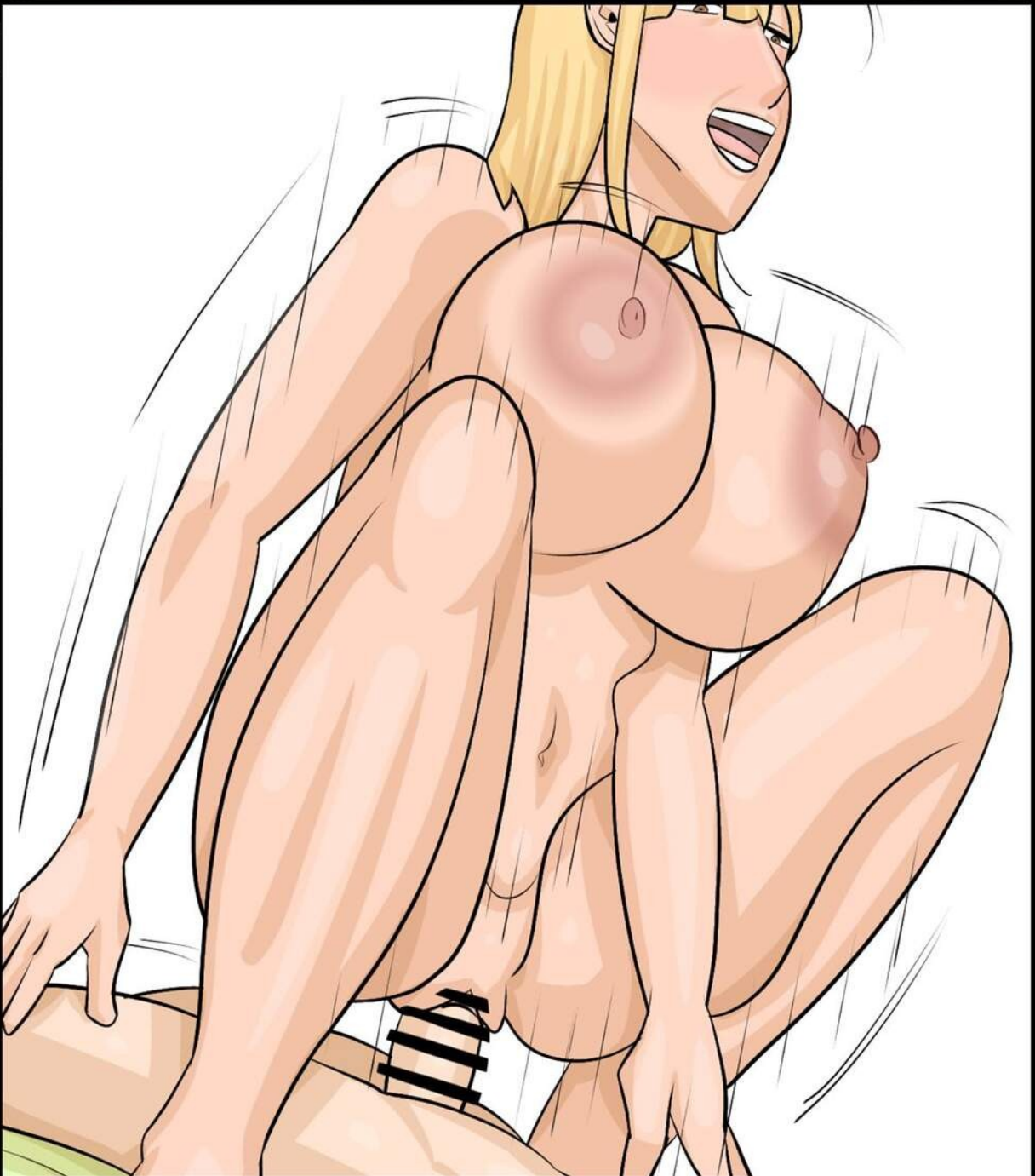
女の人にこんな動いてもらうの、  
初めてだ…。



す…きまきま…。



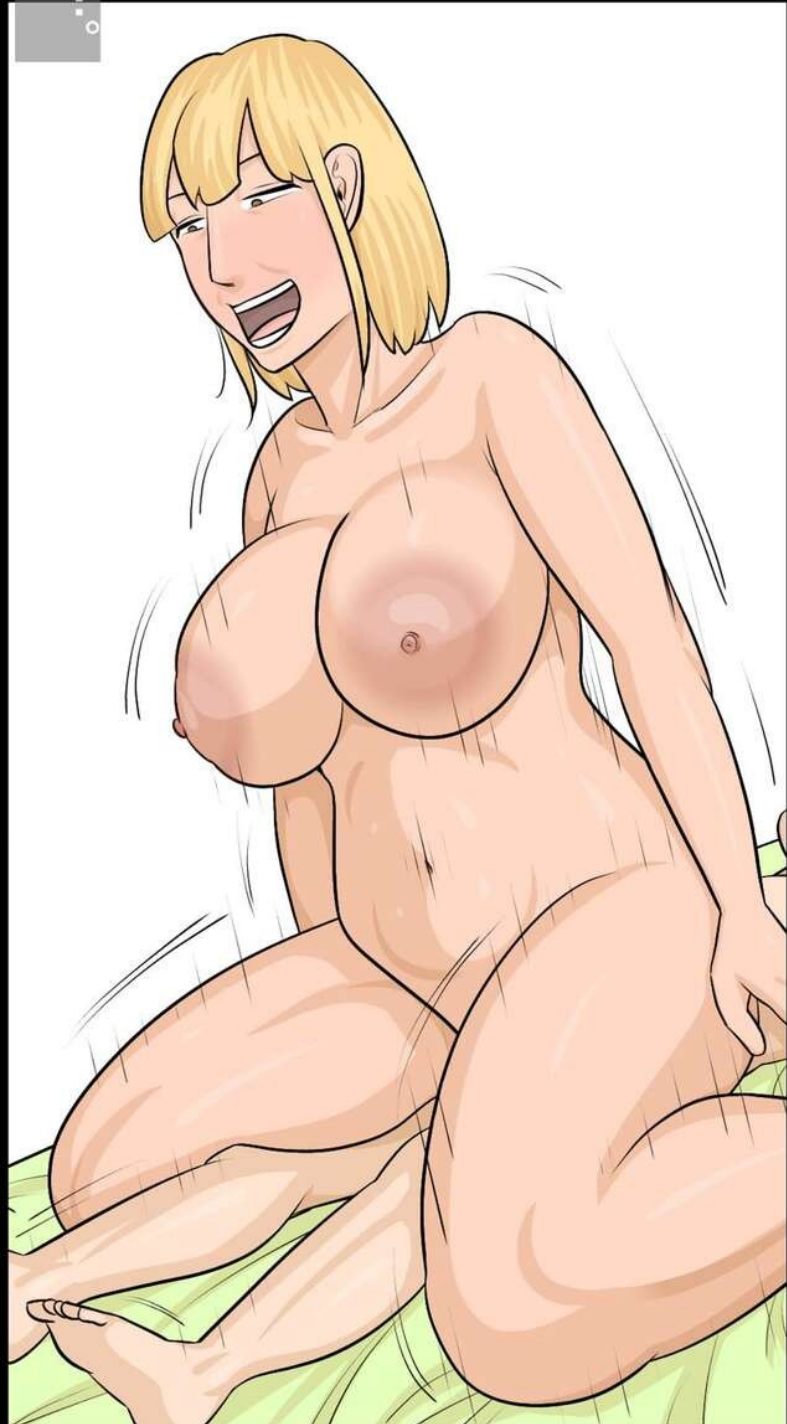
遠慮なく、  
おまんこの中に出してね。  
彼女の時も出せるように。  
しっかり練習してね。



すごく感じてるじゃん。  
これなら、  
いっぱい出せるよ。

あっ...はあっ...。  
はあんっ...。

あくまで彼女のためだからね？  
私のこと...好きになっちゃだめだからね？  
あはは。



すっ…好きになんて…ならないからっ…。  
僕は彼女のこと好きなんだよ…。

そうよね…。  
あはは…。



そうだよ...。  
鈴木さんのことなんて、  
好きになるわけ...。

僕はひなこのことが好きなんだ...。  
ひなこの彼女なんだ...。



あっ...いきなり...。  
いっちょやっ...。

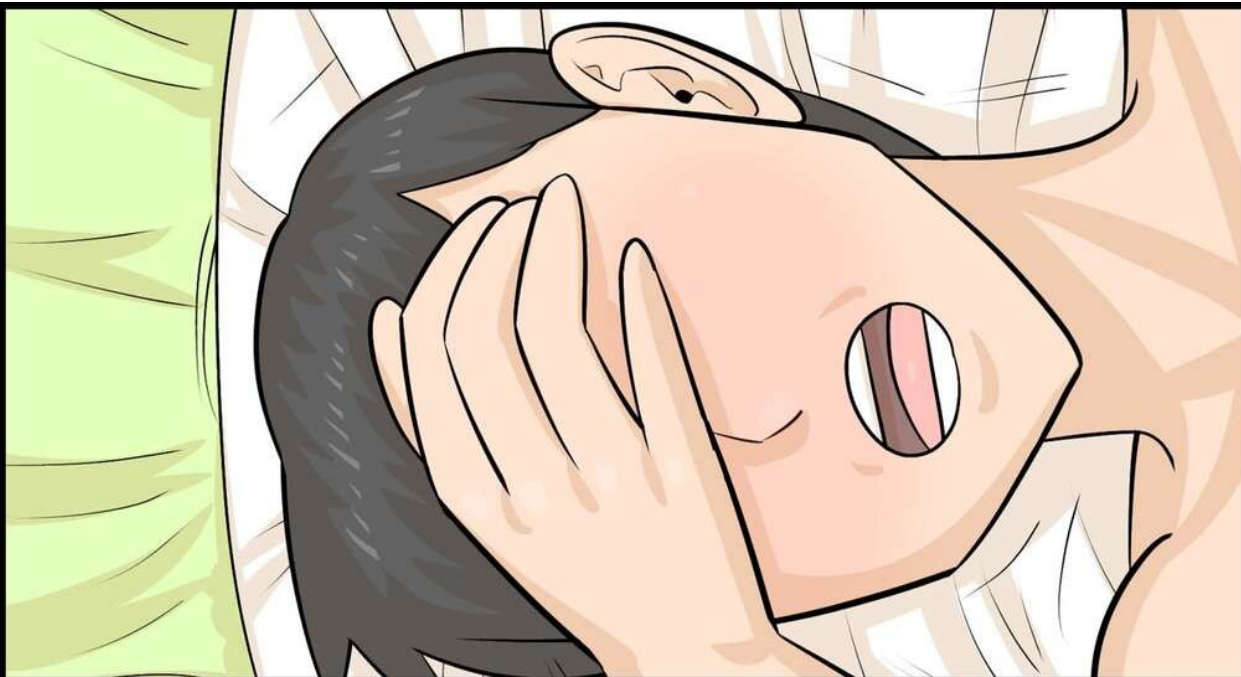




あんなっ…すごい…。  
あんなの精子、  
いっぱいおまんこに  
流れてきてる。

わあ、  
おまんこから、  
いっぱい精子垂れ  
ちゃってるよ。

はあ…はあ…。



「めん…ひな」…。

